

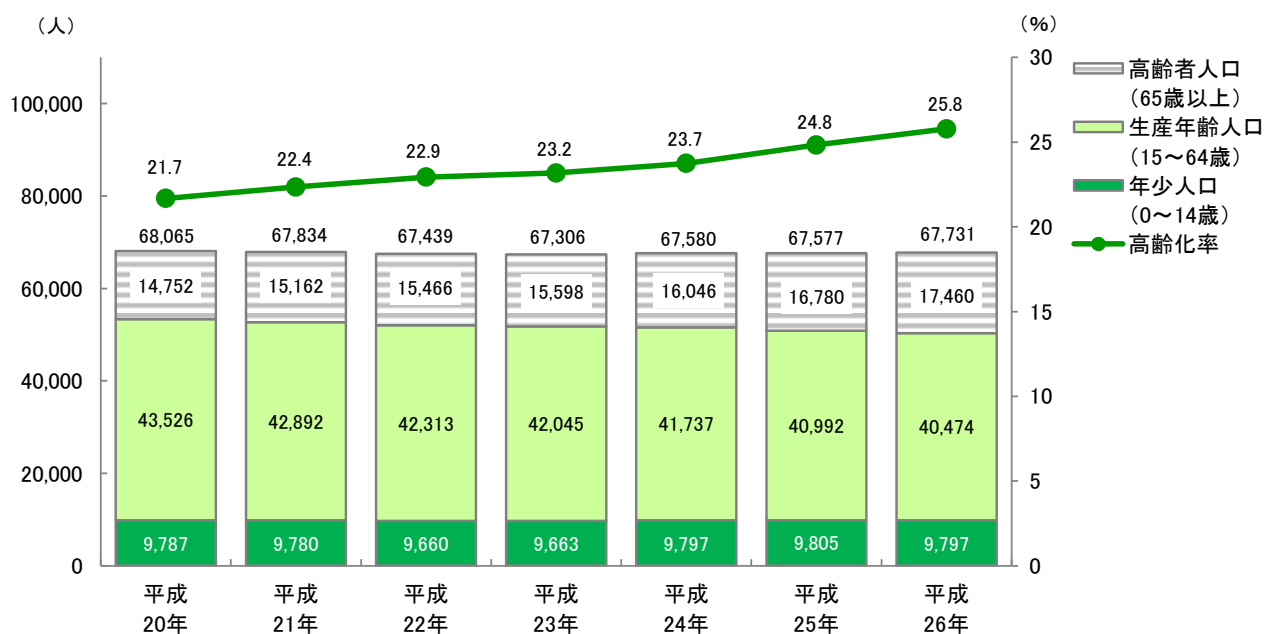
第2章 総社市の健康に関する現状

1 人口・世帯の状況

(1) 年齢区分別人口と高齢化率の推移

- 住民基本台帳上の人口は、近年、大きな増減はありません。
- 高齢者人口は増加傾向にあり、平成26年は17,460人、平成21年と比較すると15.2%増加し、高齢化率は25.8%となっています。
- 急速に高齢化が進行しており、特に、75歳以上の後期高齢者が大きく増加していることから、今後、介護や生活支援が必要な高齢者の増加が予測されます。

【年齢区分別人口・高齢化率の推移】

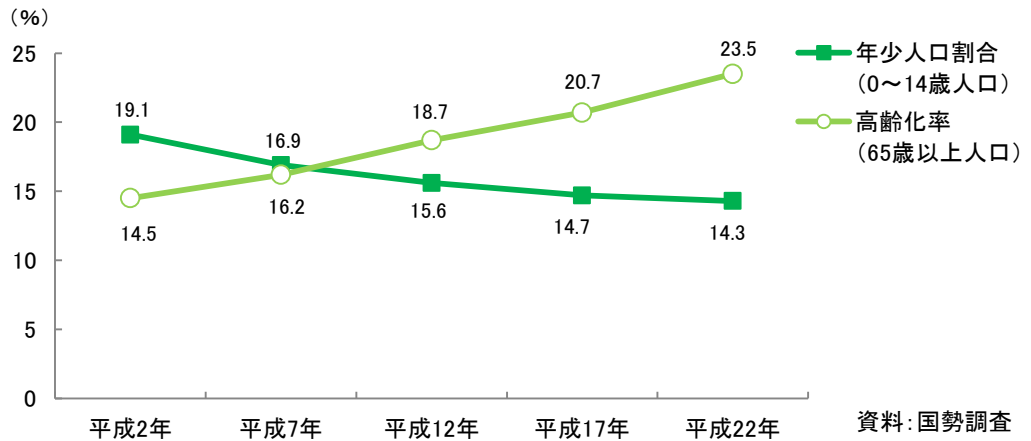


資料：住民基本台帳人口
(各年3月末現在)

(2) 年少人口割合及び高齢化率の推移

- 平成2年は、年少人口（0～14歳）割合が高齢化率（65歳以上人口割合）を上回っていましたが、平成7年にほぼ同じ値となり、平成12年以降は高齢化率が年少人口割合を上回っています。
- 少子高齢化の進行は、社会保障制度の崩壊や労働力の減少による地域活力の低下など、市民の生活や地域経済への深刻な影響が懸念されます。

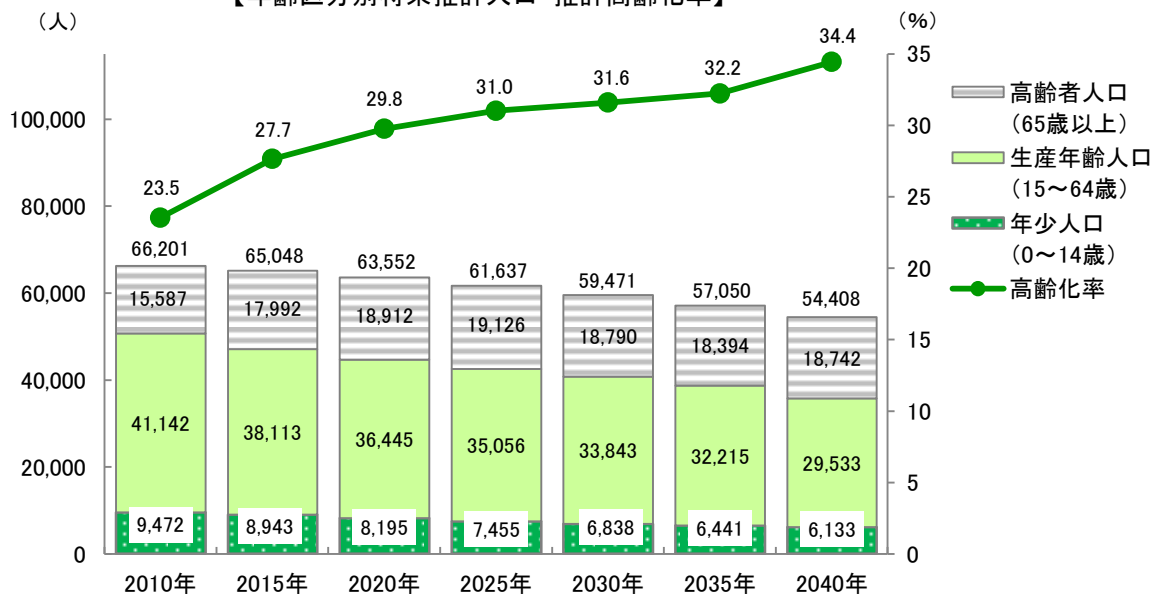
【年少人口割合・高齢化率の推移】



(3) 将来推計人口

- 将来推計人口の推移をみると、総人口、生産年齢人口、年少人口は減少し続けることが予測されます。
- 65歳以上の高齢者人口は2025年まで増加し続け、その後減少に転じます。
- 進む高齢化や医療の高度化などで一人当たりの医療費が増大し、保険料等の負担が増えることが懸念されます。

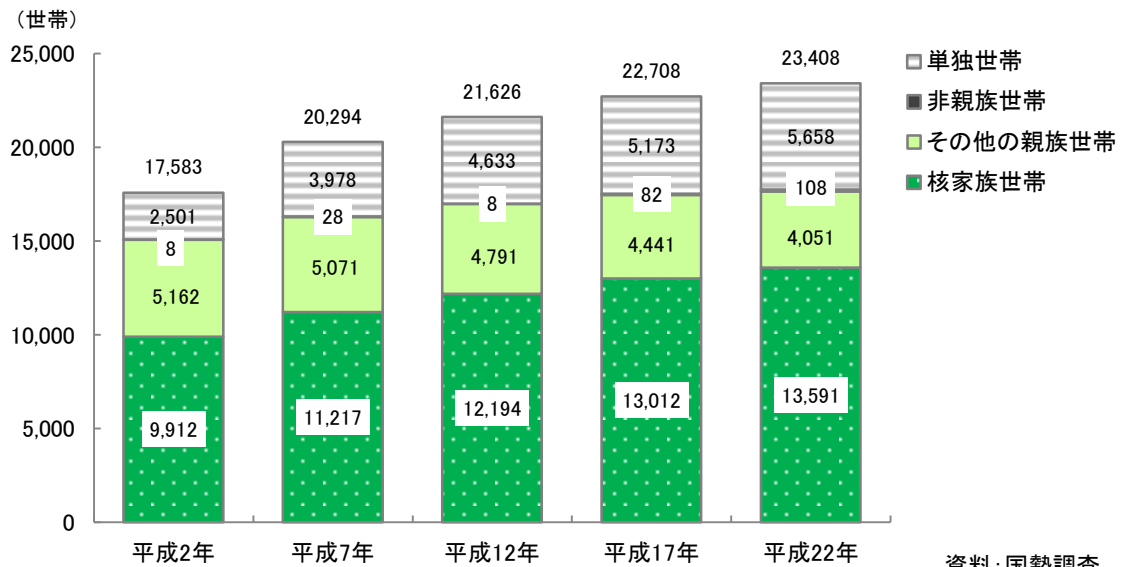
【年齢区分別将来推計人口・推計高齢化率】



(4) 家族類型別一般世帯の推移

- 一般世帯数は増加傾向にあり，家族類型をみると，核家族世帯，単独世帯が大きく増加しています。
- 三世帯世帯を含むその他の親族世帯は，減少傾向にあります。
- 家族形態の変化は，食習慣等の生活習慣にも影響を及ぼしています。
- 単独世帯や核家族世帯の増加により，家族や地域とのつながりが希薄になるため，お互いの健康問題に気づきにくく，孤立化する傾向が懸念されます。

【家族類型別一般世帯数の推移】



世帯の家族類型

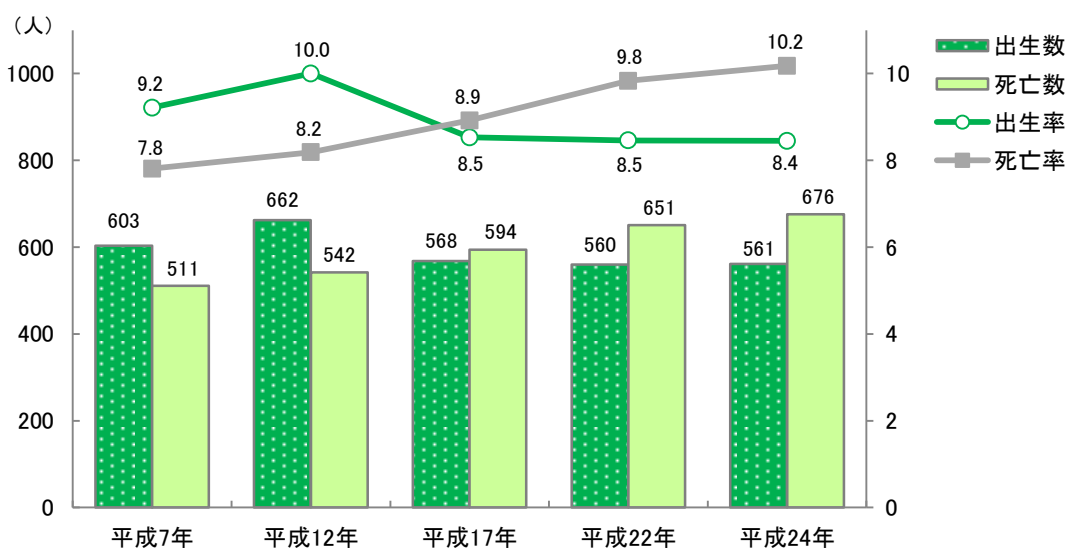
- 一般世帯 : 住居と生計を共にしている人の集まり又は一戸を構えて住んでいる単身者(施設等の世帯を含まない)
- 単独世帯 : 世帯員が一人の世帯
- 核家族世帯 : 夫婦のみの世帯と，夫婦と未婚の子どもから成る世帯(男親と未婚の子どもから成る世帯，女親と未婚の子どもから成る世帯も含む)
- その他の親族世帯 : 2人以上の世帯員から成る世帯のうち，世帯主と親族関係にあるものがある世帯で核家族でない世帯
- 非親族世帯 : 2人以上の世帯員からなる世帯のうち，世帯主と親族関係にあるものがない世帯

2 出生・死亡の状況

(1) 出生数と死亡数等の推移

- 平成17年以降、死亡数が、出生数を上回り、人口は自然減の状況が続いています。
- 出生数は、平成12年までは600人台でしたが、平成17年以降560人台で横ばいとなっており、出生率も平成17年に大きく低下しています。
- 死亡数は増加傾向にあり、平成22年以降600人を超え、死亡率も上昇傾向にあります。

【出生数・死亡数・出生率・死亡率の推移】

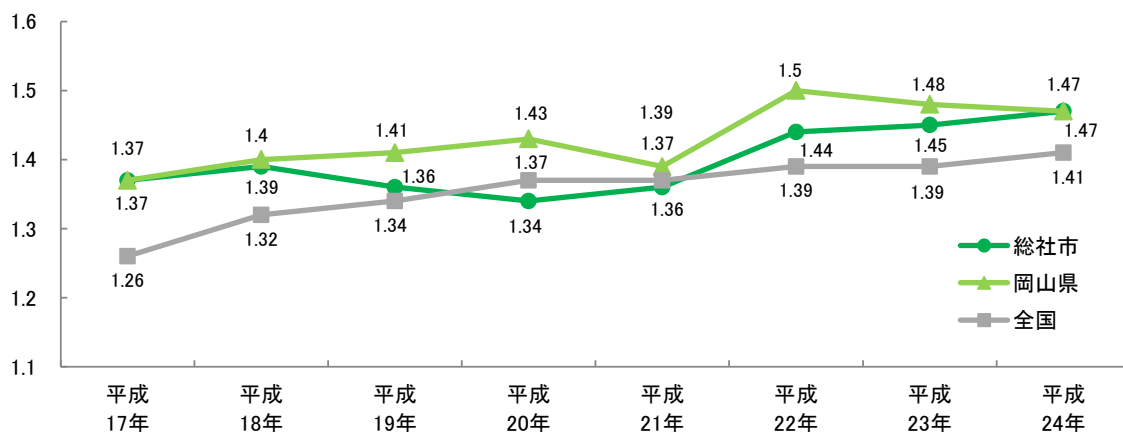


資料:人口動態統計

(2) 合計特殊出生率の推移

- 合計特殊出生率は全国よりもやや高い値で推移していますが、平成24年は1.47であり、人口を維持するために必要な2.08を大きく下回っています。

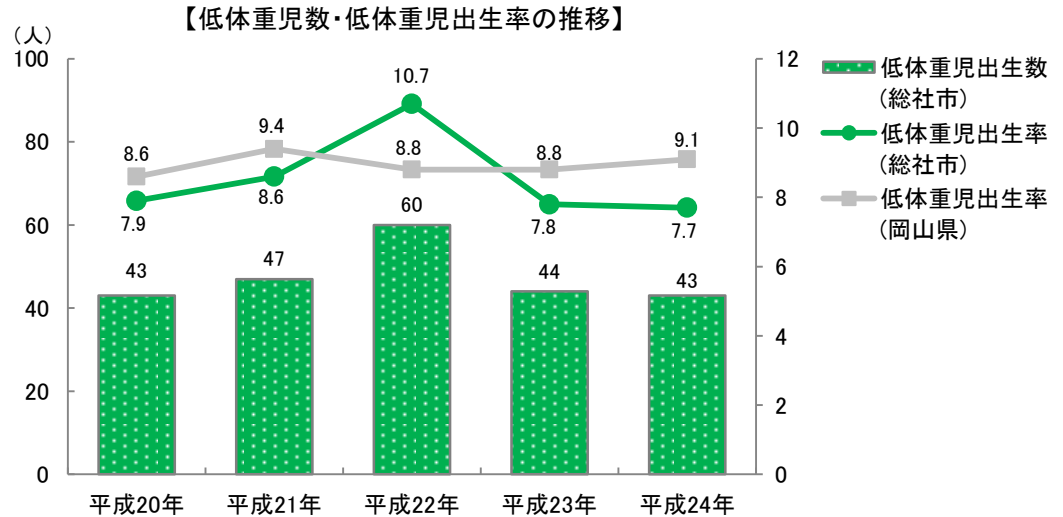
【合計特殊出生率の推移】



資料:人口動態統計(総社市値は備中保健所が算出したもの)

(3) 低体重児の出生状況

- 低体重児の出生数は、平成 22 年に 60 人と大きく増加しましたが、その後 40 人台に減少しています。
- 低体重児の出生率を岡山県と比較すると、平成 22 年を除き岡山県を下回っています。

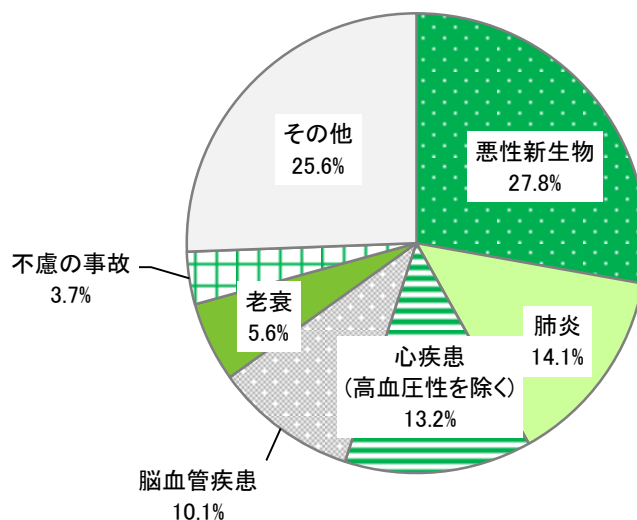


資料:人口動態統計

(4) 死因別死亡者数の状況

- 平成 24 年の死亡者数の死因別割合をみると、「悪性新生物（がん）」、「脳血管疾患」、「心疾患（高血圧性を除く）」の三大生活習慣病による死亡者数の割合が全体の 55.1%を占めています。
- 「肺炎」による死亡者数は 14.1%であり、死因の第 2 位（国は第 3 位）となっています。
- 肺炎球菌による肺炎などの感染症を予防し重症化を防ぐために、65歳以上の方を対象にワクチン接種が推奨されており、平成 26 年度から定期接種化されました。

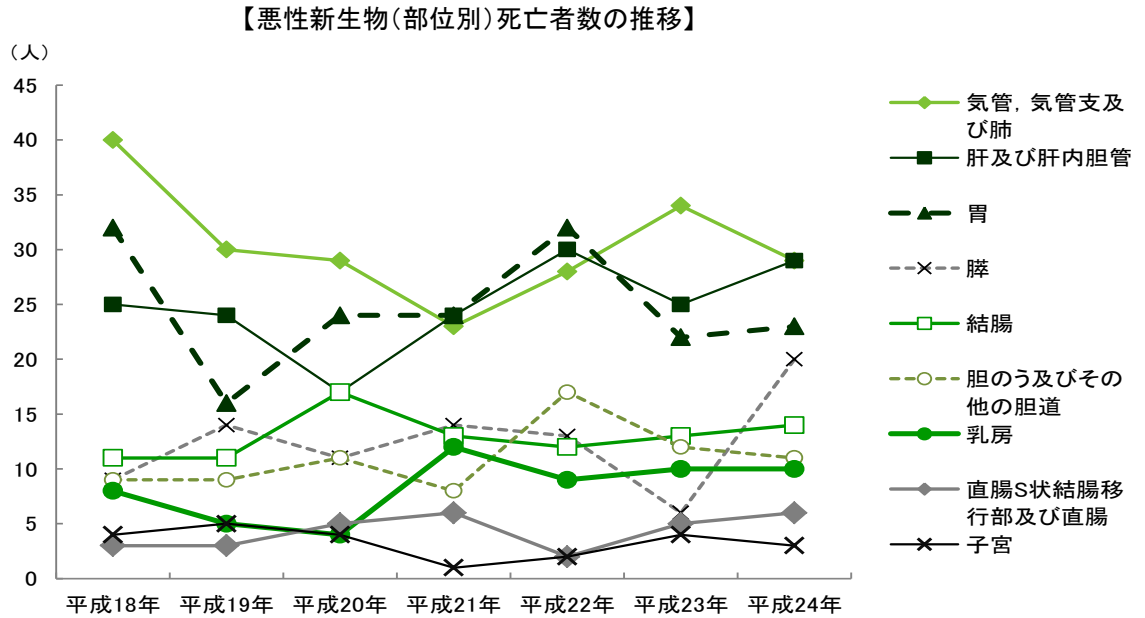
【死亡者数の死因別割合(平成 24 年)】



資料:人口動態統計

(5) 悪性新生物(部位別)死亡者数の推移

- 悪性新生物の部位別死亡者数の推移をみると、平成24年は、「気管、気管支及び肺」、「肝及び肝内胆管」、「胃」、「膵」の死亡者数が上位となっています。

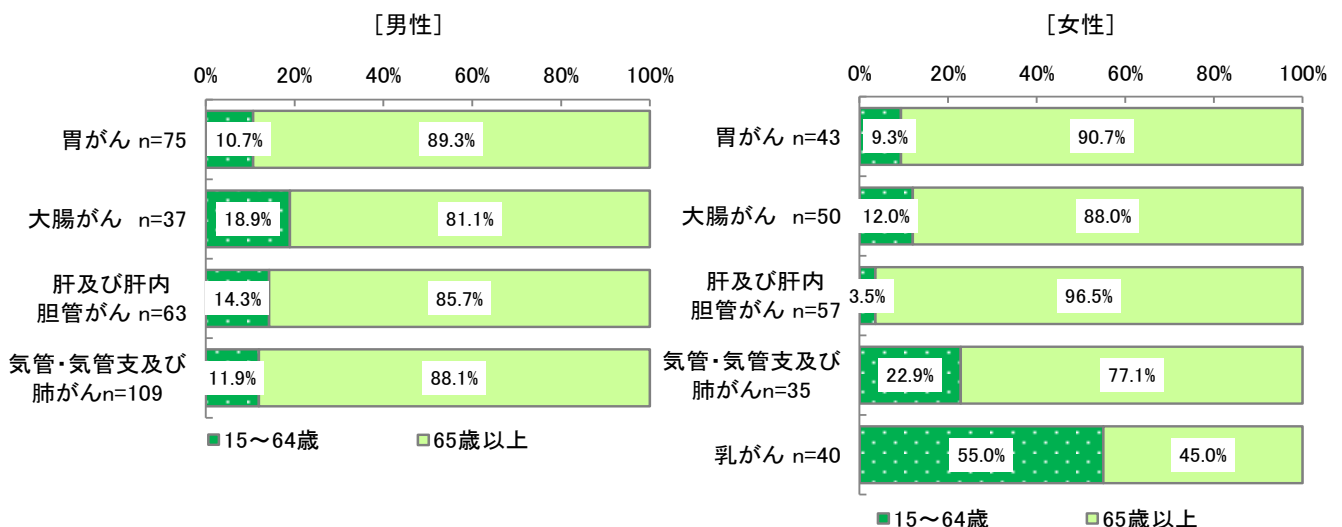


資料:人口動態統計

(6) 悪性新生物の死亡者の状況

- 性・年齢別に、悪性新生物の死亡者割合をみると、男性の大腸がん、女性の気管・気管支及び肺がん、乳がんで、64歳以下の若い年齢層の割合が高くなっています。
- 働く世代のがん死亡を減らすために、若い世代のがん検診受診率の向上が急務です。

【性・年齢・部位別の悪性新生物死亡者割合】

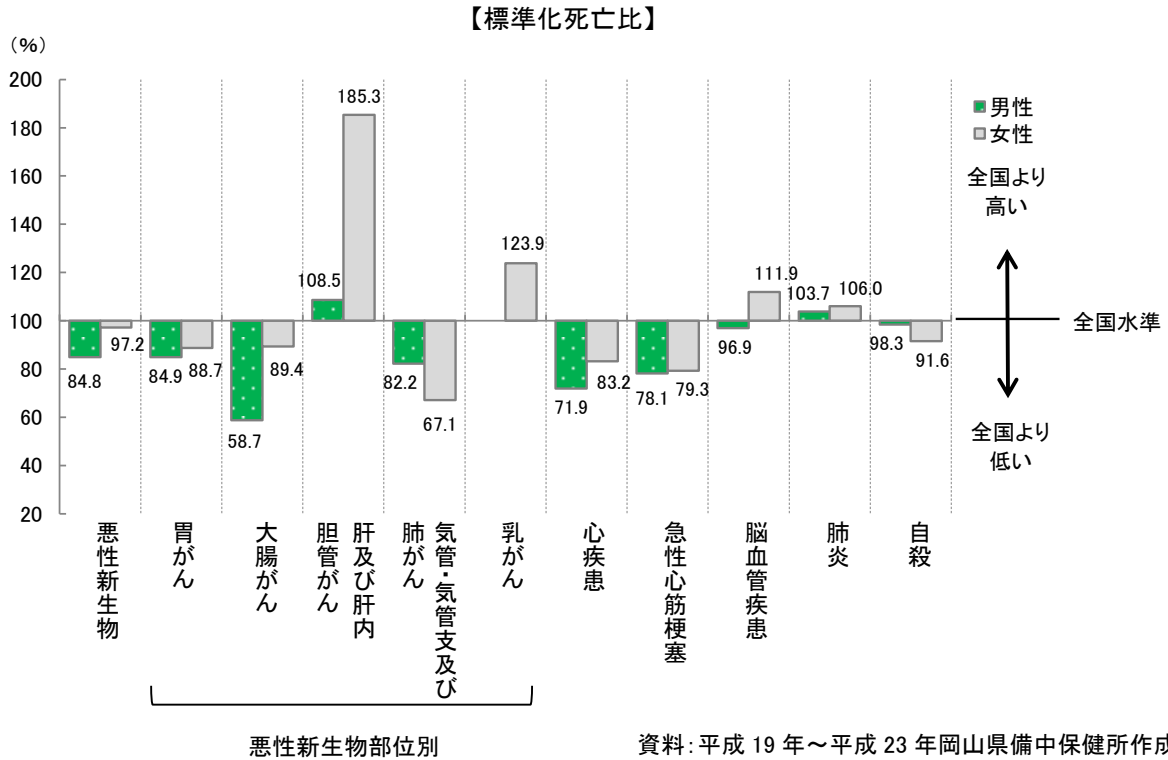


参考:乳がん 30~40歳代 4人 50歳代 13人

資料:平成19年~平成23年岡山県備中保健所作成データ

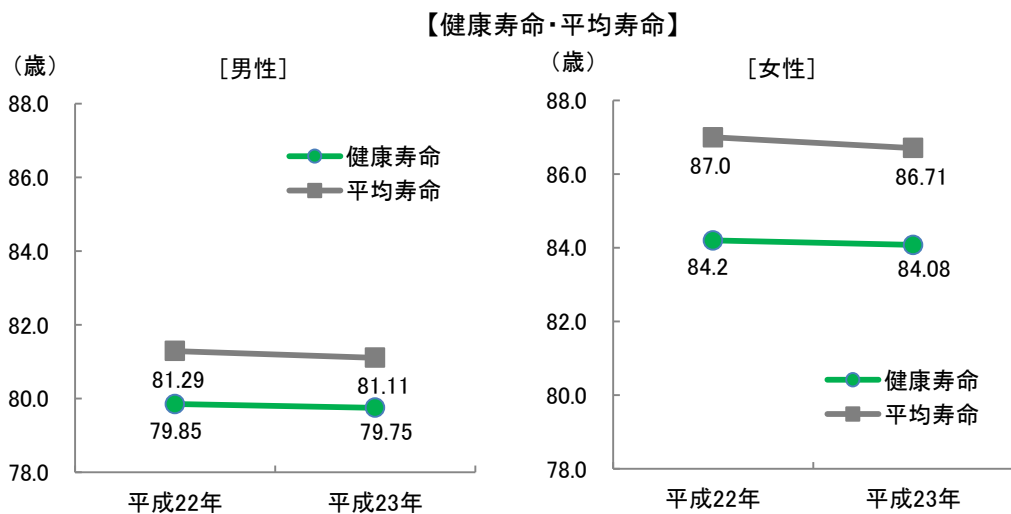
(7) 標準化死亡比の比較

- 標準化死亡比を全国と比較すると、男女の「肝及び肝内胆管がん」、女性の「乳がん」、女性の「脳血管疾患」、男女の「肺炎」が高くなっています。
- 女性の「肝及び肝内胆管がん」は185.3%と特に高くなっています。
- 肝炎ウイルス検診を実施し、肝がんの発がん因子のひとつである「ウイルス性肝炎」の早期発見・治療に努めています。



(8) 健康寿命・平均寿命

- 健康寿命, 平均寿命は, 女性が男性よりも長くなっています。
- 平成23年の健康寿命と平均寿命の差が, 平成22年に比べて短くなっており, 日常生活動作が自立している期間が長くなっています。

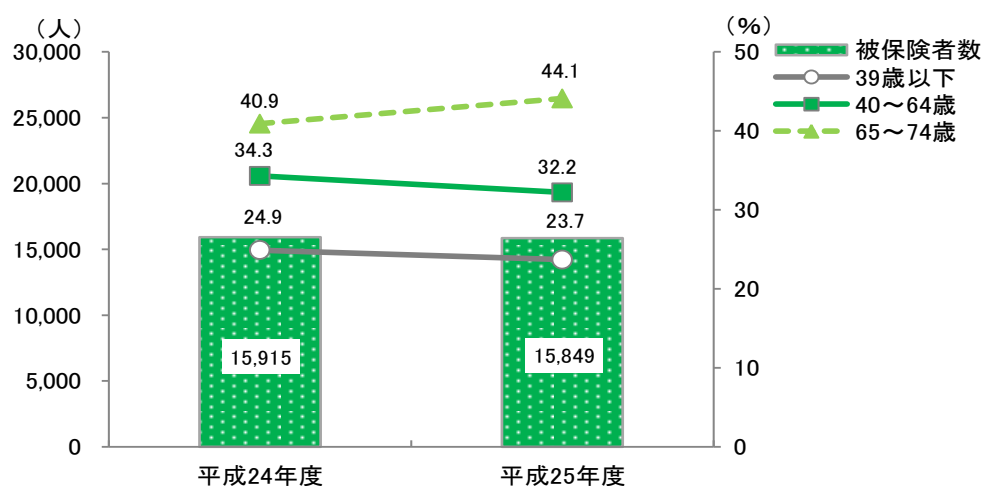


3 総社市国民健康保険被保険者の状況と課題

(1) 国保加入率（人口に占める国保被保険者数の割合）

- 平成 24 年度から平成 25 年度にかけて、総社市国保加入率は全体では減少していますが、65～74 歳加入率は増えており、急速に高齢化が進んでいます。

【国保加入率(人口に占める国保被保険者数の割合)について】

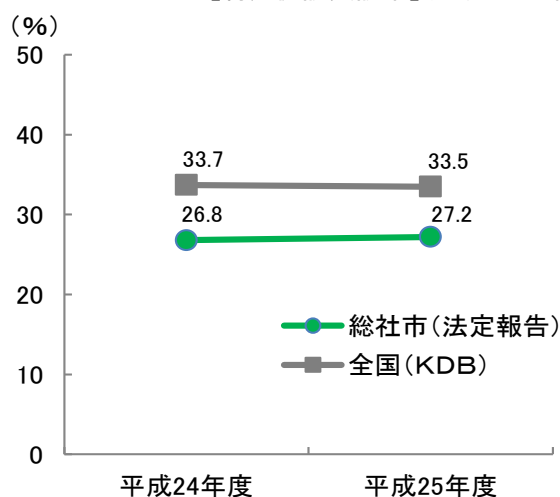


資料:KDB(国保データベースシステム)

(2) 国保特定健康診査（以下、特定健診という）の受診状況

- 特定健診受診率は、平成 25 年度は 27.2%と上昇しています。

【特定健診受診率】(グラフ差し替え予定)

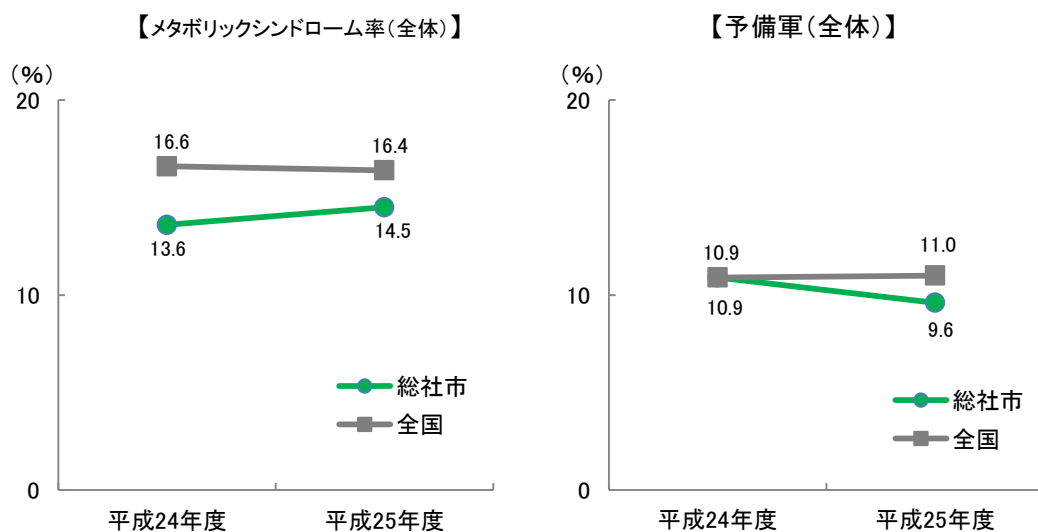


※総社市:法定報告の数値 全国:KDB分析による数値

資料:KDB(国保データベースシステム)

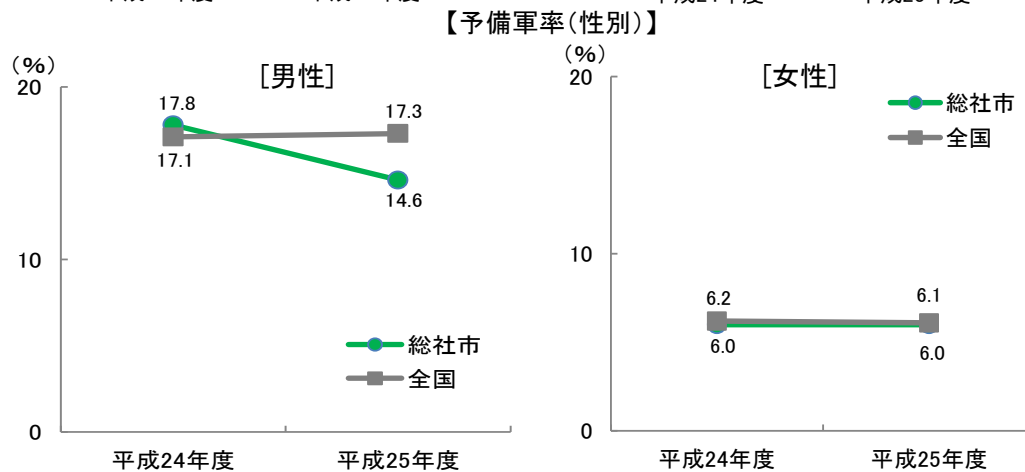
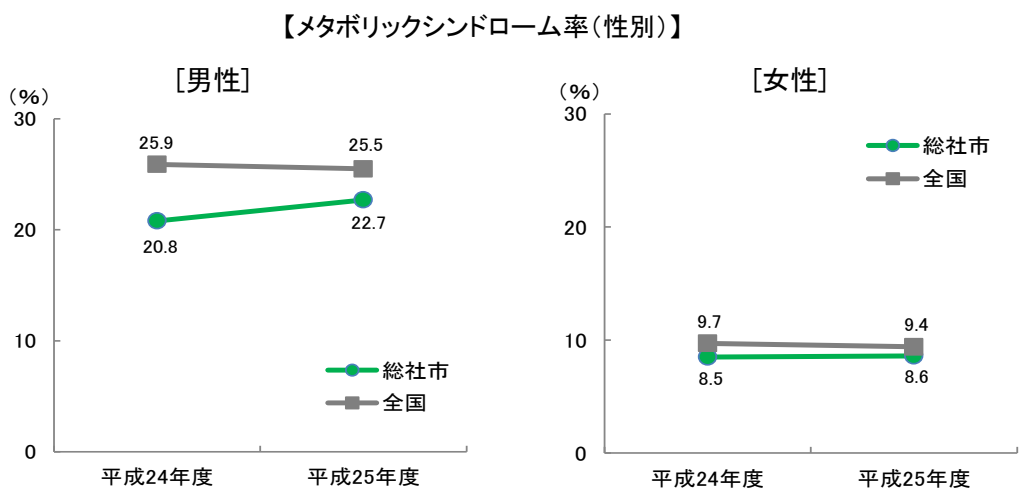
- メタボリックシンドローム及び予備軍の割合は、全国と比べて低くなっています。特定健診受診率が全国より低いため、発見率が低いとも考えられます。

- 平成 25 年度のメタボリックシンドロームの割合は、平成 24 年度より上昇しており、特定保健指導等で検査数値を下げて生活習慣病を予防し、医療費増大を防ぐ必要があります。



資料:KDB(国保データベースシステム)

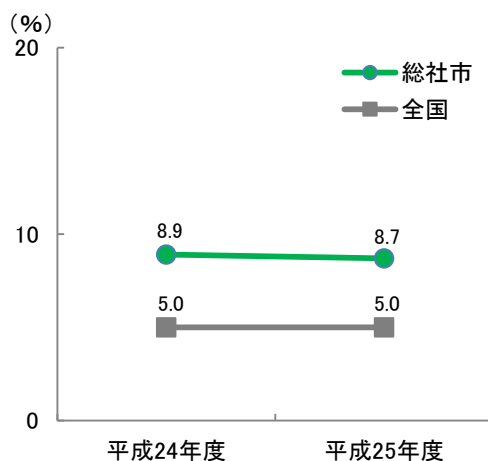
- 男性のメタボリックシンドローム及び予備軍の割合は、女性より高くなっており、メタボリックシンドロームの割合は男女ともに平成 24 年度より上昇しています。



資料:KDB(国保データベースシステム)

- 非肥満高血糖は、全国と比べて特徴的に高くなっています。
- 糖尿病合併症の方が増え、慢性腎不全による医療費の増大につながる可能性が高くなるため、重症化を防ぐ取り組みが必要です。

【非肥満高血糖の割合】



資料: KDB(国保データベースシステム)

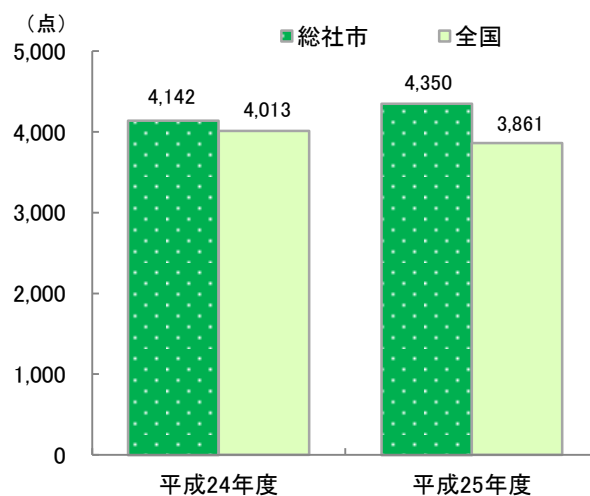
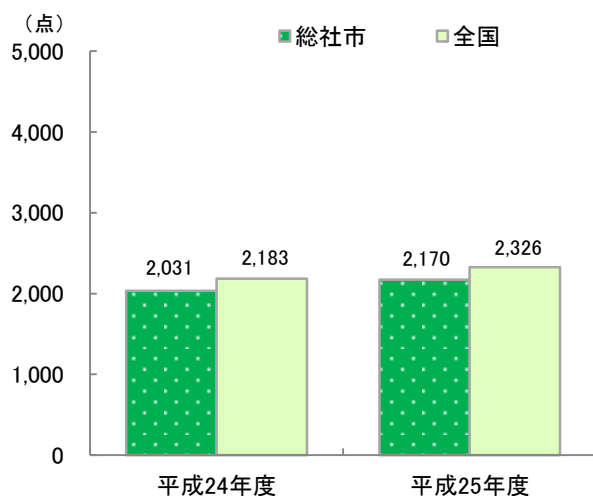
(3) 特定健診受診者1件あたりのレセプトの状況

- 特定健診未受診者は、特定健診受診者より医科レセプト点数が高く、より多くの医療を受けていることがわかります。
- 総社市では受診者及び未受診者ともに医科レセプト点数は増大しており、未受診者は、全国と比べて高くなっています。

【特定健診受診者1件あたり医科レセプト点数】

[特定健診受診者]

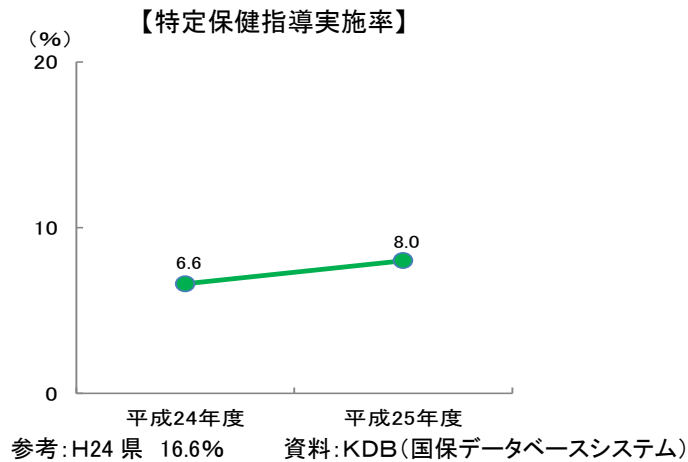
[特定健診未受診者]



資料: KDB(国保データベースシステム)

(4) 特定保健指導の実施状況

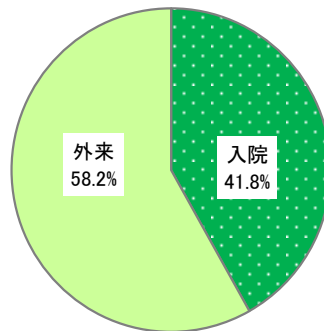
- 総社市の特定保健指導実施率（法定報告）は，県に比べて低い状況です。
- 平成 24 年度より上昇していますが，利用者を増やす更なる取り組みが必要です。



(5) 国民健康保険医療費の状況

- 平成 25 年度の国民健康保険医療費の入院，外来の割合は，外来が約 6 割であり，入院を上回っています。

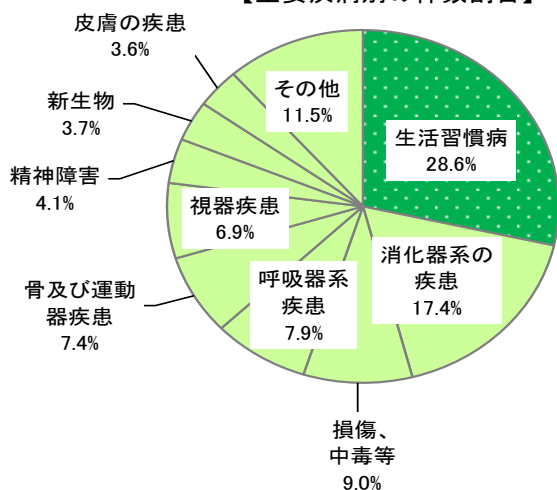
【国保医療費の入院・外来別割合】



資料: 平成 25 年度国保疾病分類統計

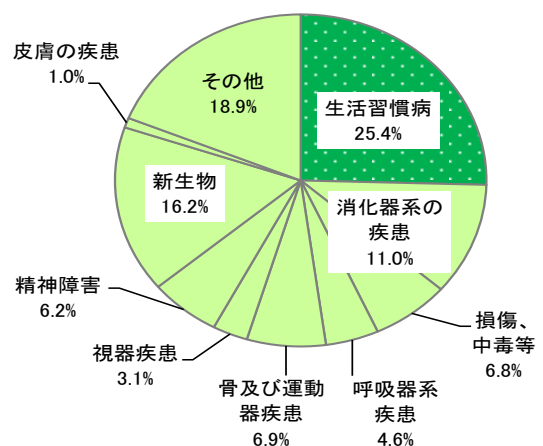
- 主要疾病別の件数割合は，「生活習慣病」，「消化器系の疾患」の順に高くなっていますが，費用割合は，「生活習慣病」に続いて「新生物」が高くなっています。

【主要疾病別の件数割合】



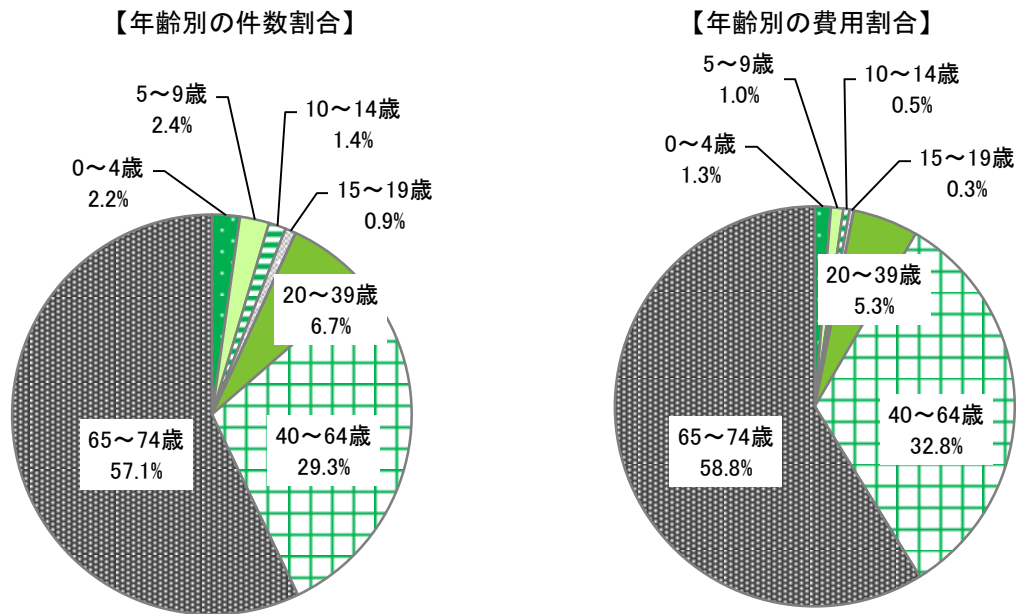
生活習慣病: 循環器系の疾患と内分泌系疾患

【主要疾病別の費用割合】



資料: 平成 25 年度国保疾病分類統計

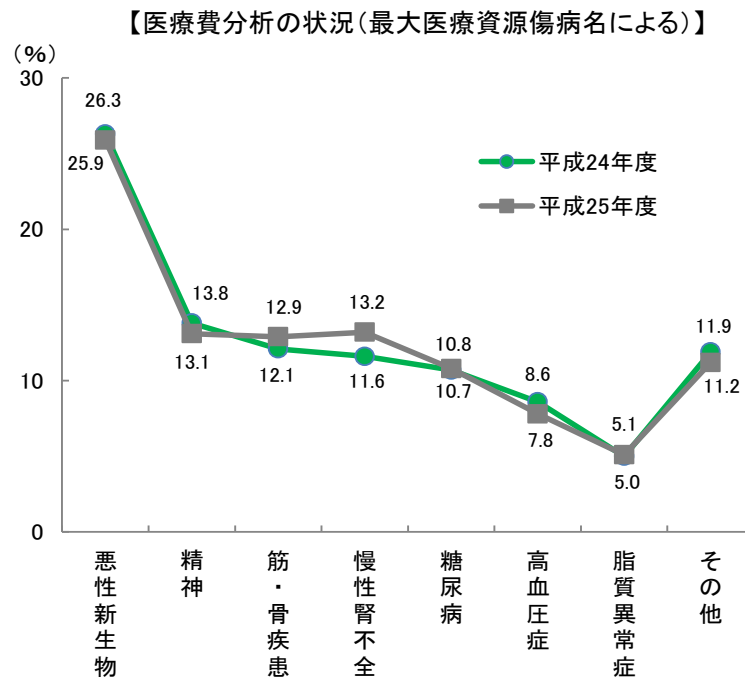
- 年齢別の件数割合、費用割合ともに、65～74歳が6割弱を占めています。



資料:平成 25 年度国保疾病分類統計

(6) 医療費分析の状況 (最大医療資源傷病名による)

- 総社市の医療費分析を見ると、平成 24, 25 年度ともに悪性新生物が1位です。
- 平成 25 年度の総社市の医療費は、慢性腎不全が 13.2%と平成 24 年度より大きく上昇しており、この数値は県のデータの 1.2 倍以上 2 倍未満にあたり、特徴的に慢性腎不全の医療費が高くなっています。

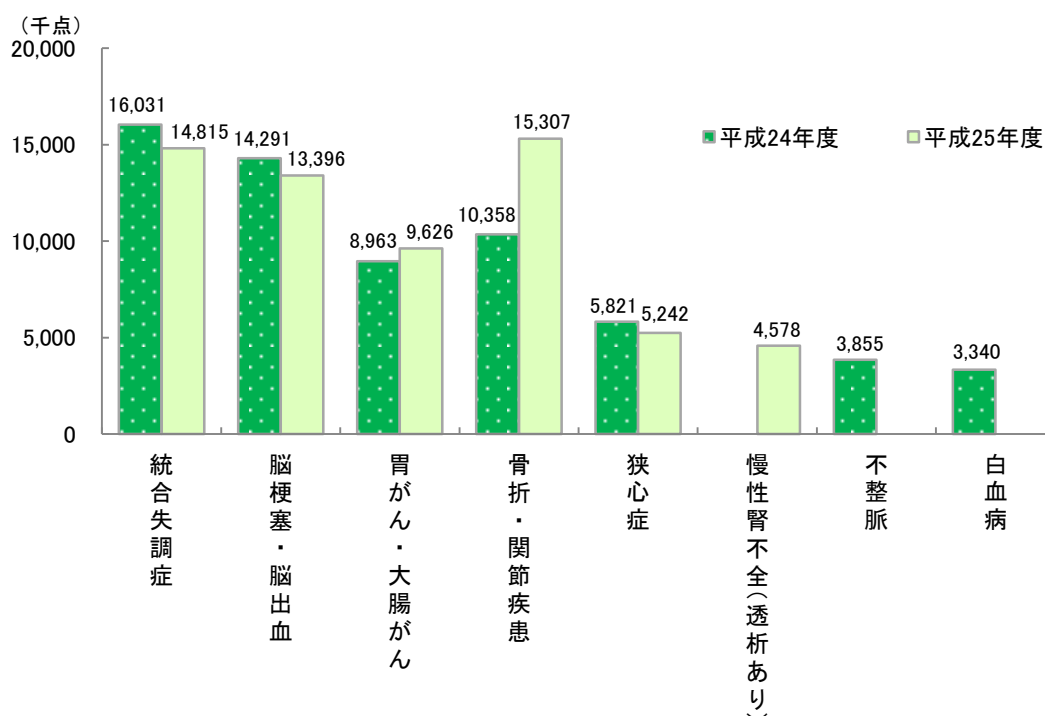


資料:KDB(国保データベースシステム)

(7) 入院医療費疾病分析の状況（最大医療資源傷病名による）

- 平成 24, 25 年度ともに統合失調症, 脳梗塞, 脳出血, 胃がん, 大腸がんは, 高くなっています。
- 平成 25 年度では骨折・関節疾患が高く, さらに, 慢性腎不全（透析あり）の医療費が上昇し, 高くなっています。
- 骨折・関節疾患は, 寝たきりや要介護状態の要因のひとつになっており, ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を防ぐ取り組みが必要です。

【疾病別入院医療費点数(上位 10 位以内)】



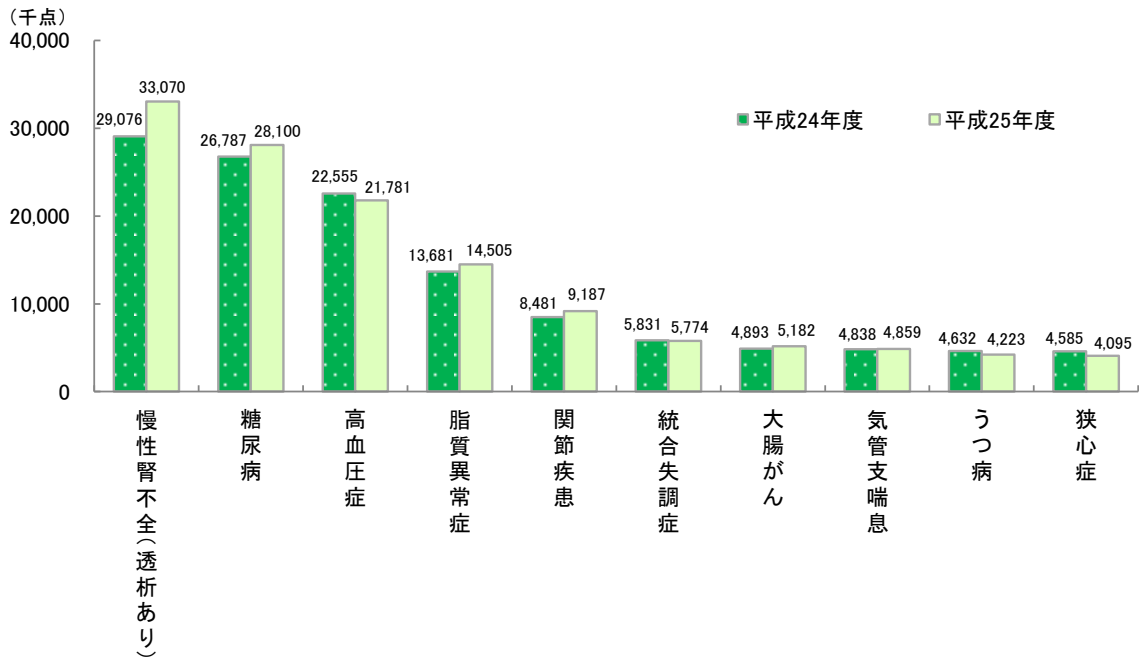
※慢性腎不全(透析あり)(H24)、不整脈(H25)、白血病(H25)は上位 10 位以内に入っていないため、省略

資料:KDB(国保データベースシステム)

(8) 外来医療費疾病分析の状況(最大医療資源傷病名による)

- 平成24・25年度とも慢性腎不全(透析あり), 糖尿病, 高血圧症, 脂質異常症は高くなっています。
- 平成25年度では, 慢性腎不全(透析あり), 糖尿病の医療費が上昇し, 高くなっています。

【疾病別外来医療費点数(上位10位以内)】

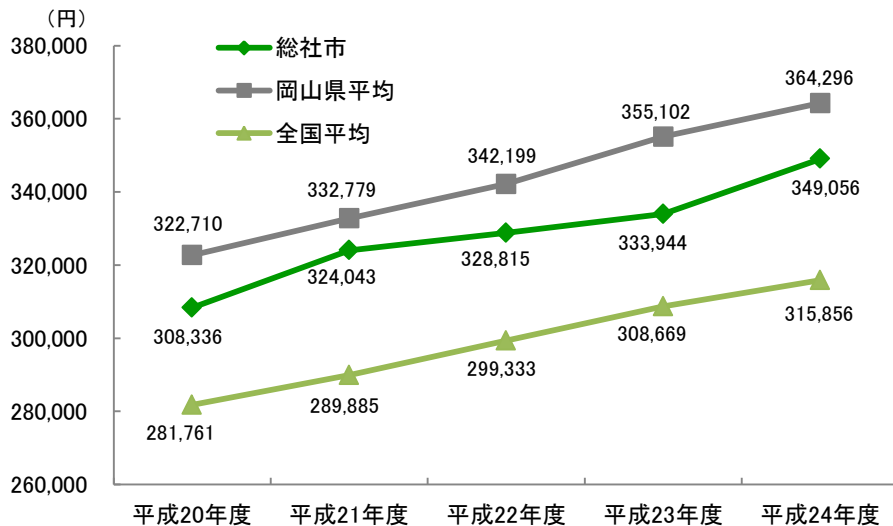


資料: KDB(国保データベースシステム)

(9) 一人当たり医療費

- 一人当たりの国保医療費は増加し続けており, 全国平均を上回っています。
- 岡山県内の市町村で比較すると, 本市の平成25年度一人当たり国保医療費は県内で最も低くなっています。

【一人当たりの医療費】



資料: 総社市市民課作成データ

- 全国の市町村で比較すると、平成 24 年度一人当たり国保医療費は、1717 市町村中 1211 位と低迷しており、今後も医療費の伸びを抑える取り組みが必要となります。

【一人当たりの国保医療費 全国の順位】

	総社市の順位※	全国の市町村数
平成22年度	1210位	1723
平成23年度	1143位	1717
平成24年度	1211位	1717

※医療費の低いほうからカウント

資料:医療費の地域差分析

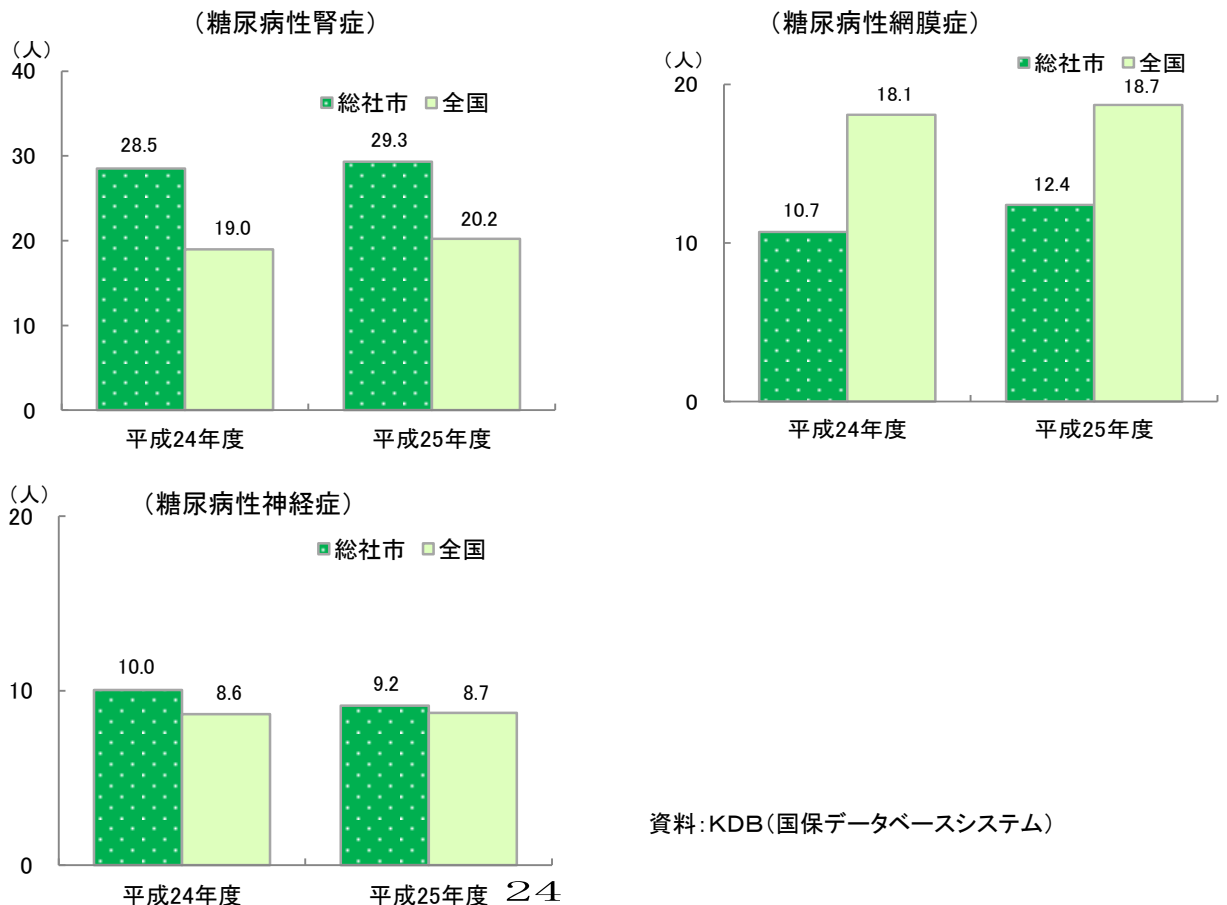
(10) 後発医薬品（ジェネリック医薬品）使用割合

- 平成 25 年度のジェネリック医薬品の使用割合は 39.84%です。（市民課統計）
- 毎月対象者には、ジェネリック医薬品の差額通知を送付するなど利用促進に努めています。

(11) 患者 1,000 人あたり糖尿病合併症患者数の状況

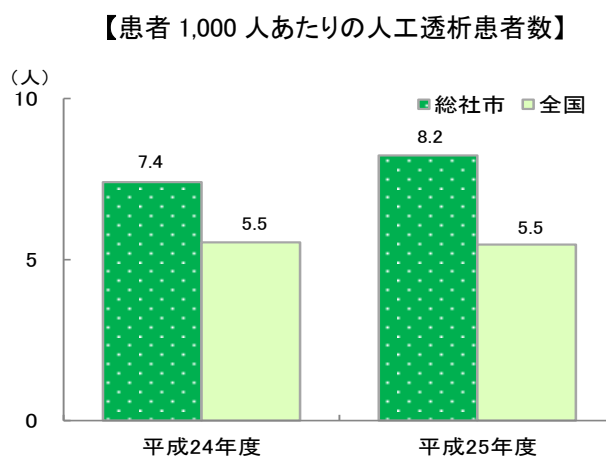
- 平成 24, 25 年度ともに、糖尿病性腎症が全国と比べて高くなっています。
- 平成 25 年度では、糖尿病性神経症が減少していますが、糖尿病性腎症、糖尿病性網膜症の患者数は増加しています。

【患者 1,000 人あたり糖尿病合併症患者数の状況】



(12) 患者1,000人あたりの人工透析患者数の状況

- 平成24, 25年度ともに人工透析患者数が、全国より高くなっています。
- 医療費の伸びを抑えるために、糖尿病の重症化を防ぎ、新規透析導入患者を減らす取り組みが急務といえます。



参考: H25 新規透析導入患者数は9人(更生医療)

資料: KDB(国保データベースシステム)

(13) 人工透析患者数の状況 (グラフ作成中)

4 総社市健康づくり施策の現状

ライフステージ	健康管理	食育	身体活動・運動	休業・こころの健康	教誨・たばこ	歯・口腔の健康	地域で支えるあゆみづくり
妊産期	妊婦届 母子手帳交付・妊婦面接 妊婦一応健康診査 妊婦訪問	妊婦栄養相談	妊婦健康相談 妊婦健康相談 妊婦健康相談 妊婦健康相談	妊婦健康相談	妊婦健康相談 妊婦健康相談 妊婦健康相談 妊婦健康相談	妊婦健康相談 妊婦健康相談 妊婦健康相談 妊婦健康相談	妊婦健康相談 妊婦健康相談 妊婦健康相談 妊婦健康相談
乳幼児期	新生児健康診査 こどもは赤ちゃん訪問 定期予防接種(こども) 任意予防接種費用助成事業 1歳6か月健康診査(再掲) 3歳児健康診査(再掲) 5歳児健康診査(母子健康相談) ラッコ広場(育児相談) そらじゃ保育園一貫サポートシステム 子育て支援訪問事業 療育相談事業	助産師による母乳相談 こどもは赤ちゃん訪問(再掲) 1歳6か月健康診査(再掲) 3歳児健康診査(再掲) ラッコ広場(再掲) 小児科保健指導 保育所・幼児園給食提供 栄養委員による食育活動 「早寝・早起き・晩ごはん」運動	幼稚園健康相談 わくわくフェスティバル (スポーツフェスティバル)	育児相談 グループカウンセリング 育児相談 母子健康相談(再掲)	1歳6か月健康診査 3歳児健康診査 小児科保健指導 たんぽぽ活動	妊婦健康相談 妊婦健康相談 妊婦健康相談 妊婦健康相談	妊婦健康相談 妊婦健康相談 妊婦健康相談 妊婦健康相談
学童・思春期	児童・生徒の定期健康診断	学校給食提供・給食運搬車の使用 栄養委員による食育指導	スポーツ年間 小中学校体育施設開放	不登校相談・スクールカウンセラー設置 児童が行きどくなる 学校づくり推進プラン	小・中学校での歯科検診 PTA連合会 学校保健委員会	小・中学校での歯科検診 PTA連合会 学校保健委員会	小・中学校での歯科検診 PTA連合会 学校保健委員会
成人期・高齢期	そらじゃ健康マイイベント事業 国民1万円キャッシュバック事業 子宮がん検診(20歳以上女性) 乳がん検診(相談診)(60歳以上女性) 愛育委員による 乳がん検診(相談診)・医師検診 国民特定健診(集団検診・医師検診) 国民人間ドック費用給付 乳がん検診(マンモグラフィ) 腎がん検診 大腸がん検診 肺がん検診 前立腺がん検診 肝臓ウィルス検診 骨粗鬆症検診(骨密度) 認知症検診(脳目) がん検診 岡山県肝臓病検診推進事業 機能訓練事業	栄養教室 男性健康教室・男性料理クラブ等 そらじゃ・ヘルシーメニュー認定制度 栄養委員による 国民特定健診時の減塩普及活動 季節のレシピ発行	スポーツ教室 市内スポーツクラブ そらじゃ志願者ボランティア そらじゃ志願者ボランティア 各種市民講座(3B体系、ダンス等)	心身の健康相談 総社自設ゼロ作機 ワークミーハー講座 自殺未遂者相談窓口 腫瘍と連携した心の健康づくり支援	心身の健康相談 総社自設ゼロ作機 ワークミーハー講座 自殺未遂者相談窓口 腫瘍と連携した心の健康づくり支援	心身の健康相談 総社自設ゼロ作機 ワークミーハー講座 自殺未遂者相談窓口 腫瘍と連携した心の健康づくり支援	心身の健康相談 総社自設ゼロ作機 ワークミーハー講座 自殺未遂者相談窓口 腫瘍と連携した心の健康づくり支援
高齢期	定期予防接種(インフルエンザ・肺炎球菌) 後期高齢者健康診査(集団検診・医師検診) 後期高齢者人間ドック費用給付	いよいよ講義(栄養指導)	いよいよ講義(運動指導) 高齢者スポーツ大会 バタンド大会 グラントゴルフ大会 コートボール大会 いよいよ講義(再掲) 特定高齢者介護予防事業	地域包括支援センター(相談事業) 要介護者支援センター いよいよ講義 (認知症理解・うつ予防のための啓発) 認知症サポートセンター養成講座 認知症キャラバン・メイト養成研修 特定高齢者介護予防事業	かみかみ百歳体操 いよいよ講義(口腔ケア) かみかみ百歳体操 いよいよ講義 (認知症理解・うつ予防のための啓発) 認知症サポートセンター養成講座 認知症キャラバン・メイト養成研修	地域包括支援センター 要介護者支援センター いよいよ講義(口腔ケア) かみかみ百歳体操 いよいよ講義 (認知症理解・うつ予防のための啓発) 認知症サポートセンター養成講座 認知症キャラバン・メイト養成研修	地域包括支援センター 要介護者支援センター いよいよ講義(口腔ケア) かみかみ百歳体操 いよいよ講義 (認知症理解・うつ予防のための啓発) 認知症サポートセンター養成講座 認知症キャラバン・メイト養成研修
全ライフステージ							

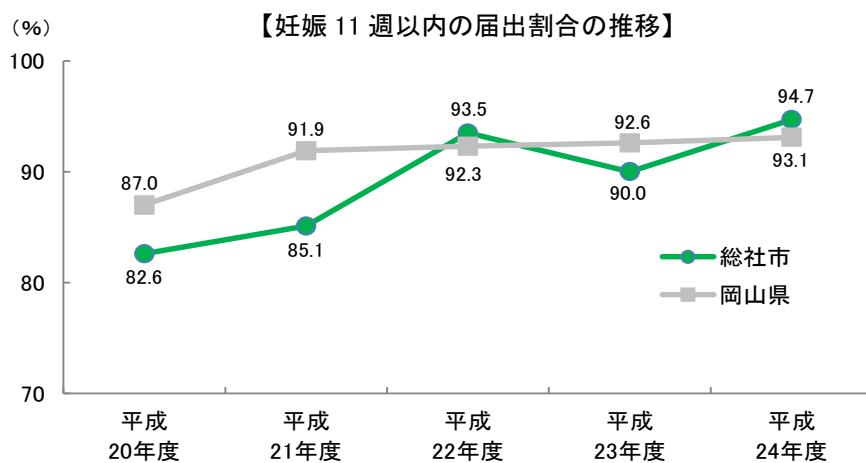
5 健康分野ごとの状況

本市では、市民の健康の維持増進、生活習慣病予防のために、市民一人ひとりが、自分の健康に関する知識を進んで得て、保健・医療サービスを有効に活用し、望ましい生活習慣を実践する「自分の健康は自分で守る」取り組みを進めています。

(1) 健康管理

① 妊娠11週以内の届出

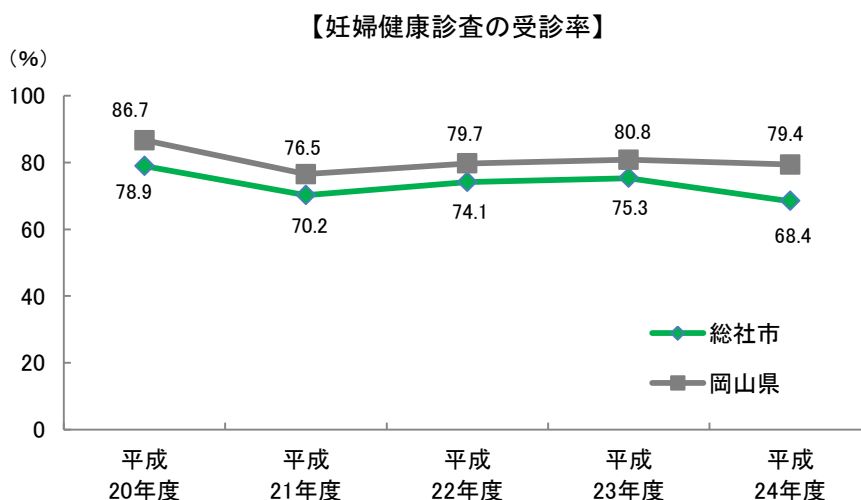
- 11週以内に妊娠届を提出する割合は、平成24年度は94.7%であり、岡山県を上回っています。
- 平成22年度以降、90%以上の高い水準を維持しています。



資料：岡山県母子保健評価事業報告

② 妊婦健康診査の受診状況

- 妊婦健康診査の受診率は、岡山県を下回っており、平成24年度は、平成20年度以降最も低くなっています。

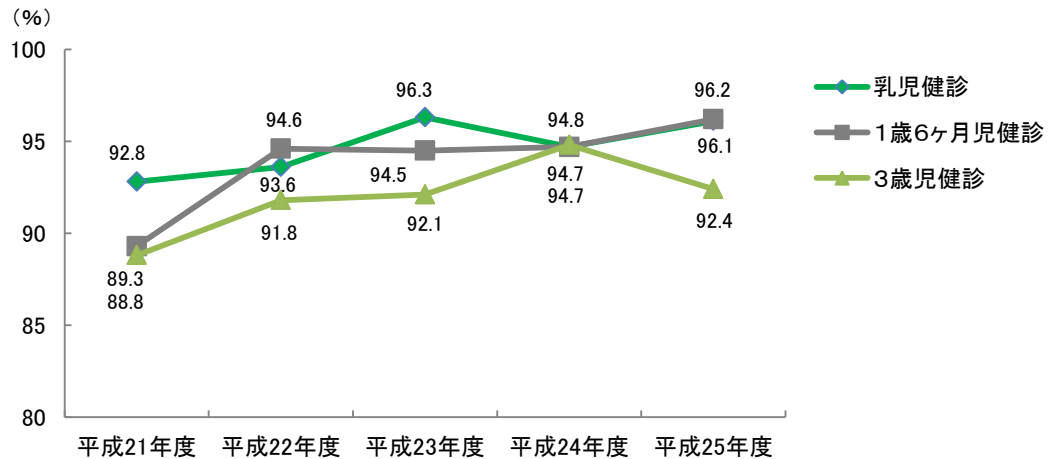


資料：岡山県母子保健評価事業報告

③ 乳幼児健康診査の受診状況

- 乳幼児健康診査の受診率は、平成22年度以降90%台であり、高い水準を維持しています。
- 未受診者の状況については100%把握できています。

【乳幼児健康診査の受診率の推移】

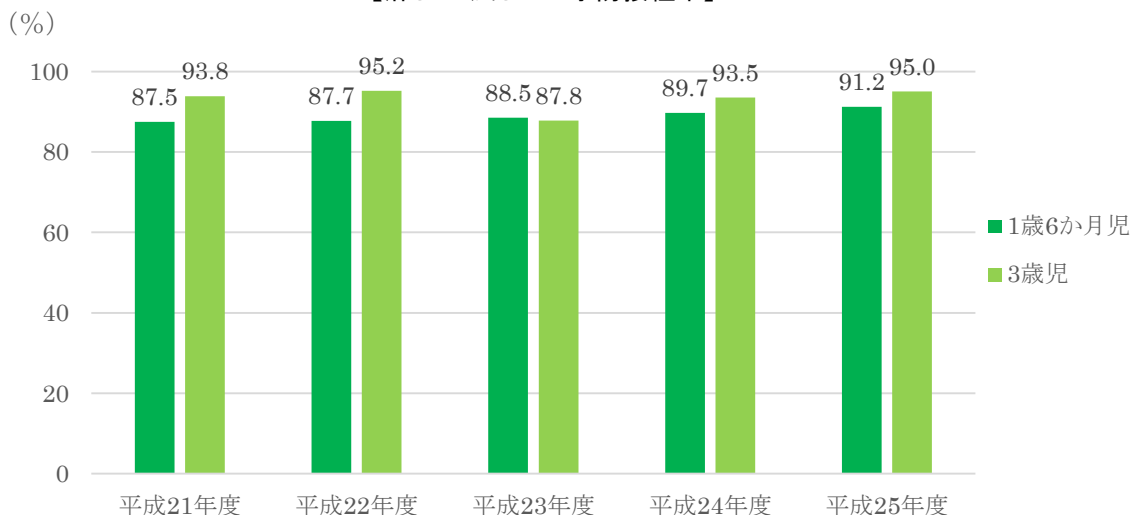


資料：岡山県母子保健評価事業報告

④ 予防接種（麻しん・風しん）の接種状況

- 麻しん・風しんの接種率は年々上昇し、平成25年度は1歳6か月児も90%を超えています。

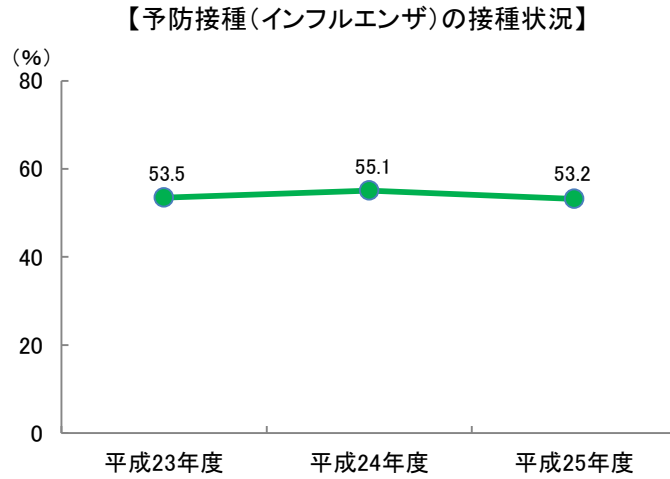
【麻しん・風しんの予防接種率】



資料：岡山県母子保健評価事業報告

⑤ 予防接種（インフルエンザ）の接種状況

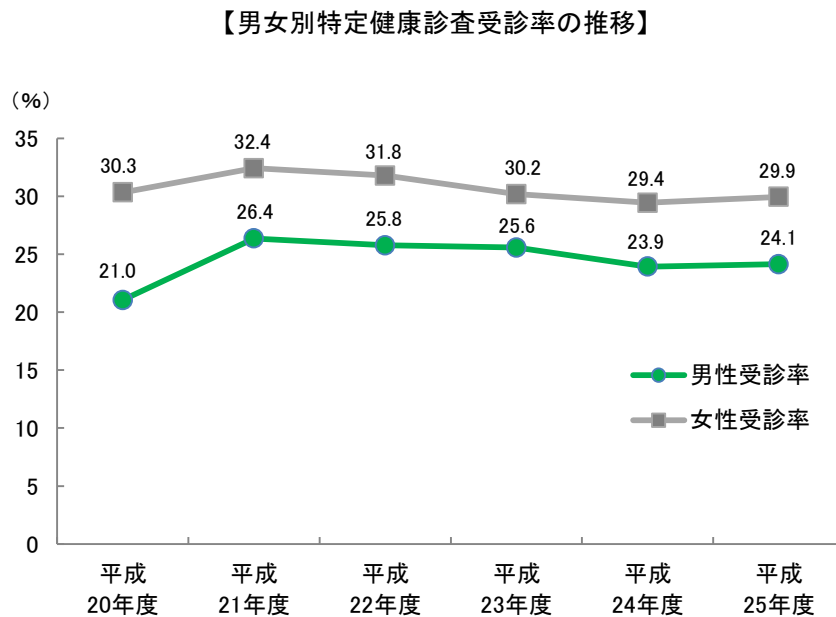
- インフルエンザの定期接種対象年齢は、65 歳以上の方であり、接種率は、平成 23 年度から平成 25 年度にかけて横ばいの状態です。



資料: 総社市健康づくり課作成データ

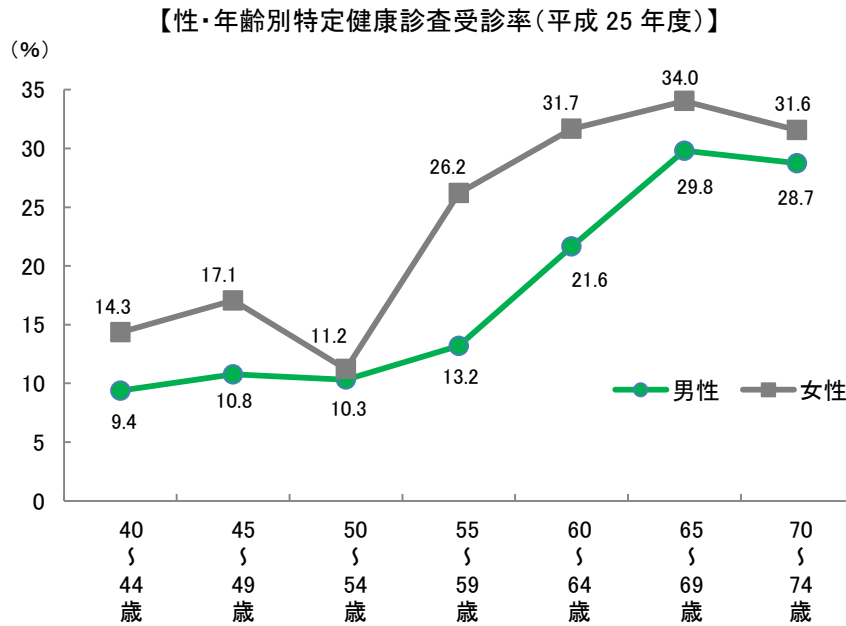
⑥ 性・年齢別の特定健康診査受診状況

- 特定健康診査の受診率は、男女ともに平成 21 年に上昇した後は、ゆるやかに下降しています。
- 被保険者への広報啓発，検診体制の見直し等の取り組みにより，平成 25 年度には上昇しています。



※参考 新規受診者割合 H24:17.8% H25:16.1%

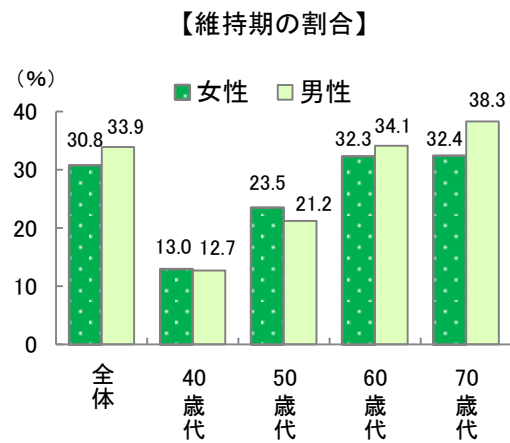
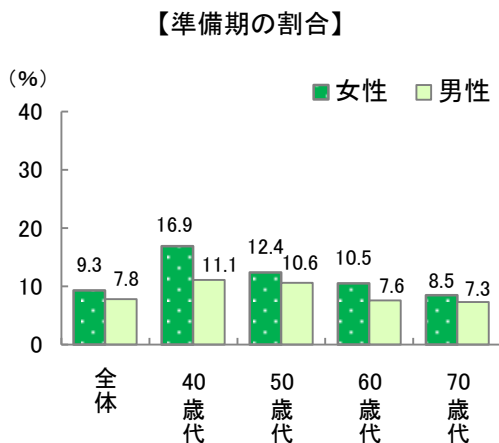
- 性・年齢別にみると、男女ともに若い年代で低く、特に50～54歳男性が低くなっています。



資料：総社市健康づくり課作成データ

⑦ 性・年齢別の生活習慣改善意思の状況

- 国保特定健診受診者のうち、準備期※の割合は、女性が男性を上回っており、年齢別にみると特に女性40歳代で最も高く16.9%となっています。
- 維持期※の割合は、全体では約3割いますが、若い年代で低く男女とも40歳代では10%台となっています。



準備期：近いうち(概ね1か月以内)に生活習慣を改善する予定であり、少しずつ始めている時期

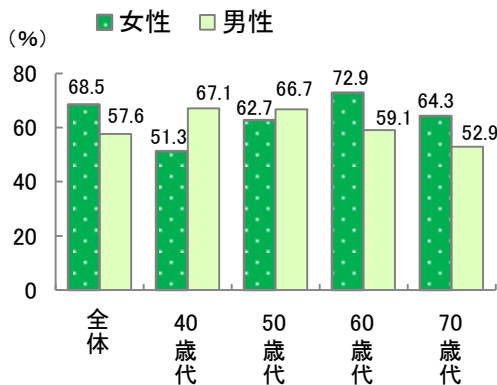
維持期：既に改善に取り組んでいる(6か月以上)時期

資料：平成25年度国保特定健康診査問診結果

⑧ 健診結果

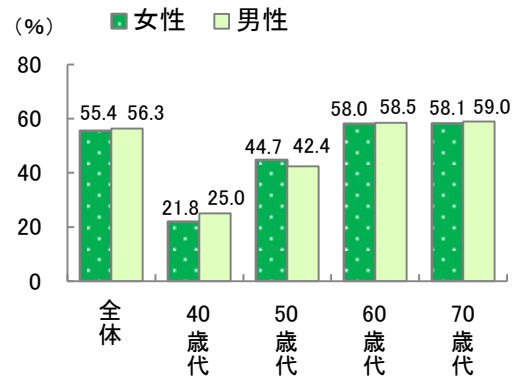
- LDL コレステロールが基準値以上の割合は、女性 60 歳代、男性 40 歳代、男女 50 歳代で高くなっています。
- HbA1c が基準値以上の割合は男女ともに 60 歳代・70 歳代で高くなっています。
- LDL コレステロール、HbA1c とともに国と比べて、基準値以上の割合が高くなっています。

【LDL コレステロール 120 mg/dl 以上の割合】



参考：国 女性 55% 男性 53.6%

【HbA1c 5.6%以上の割合】



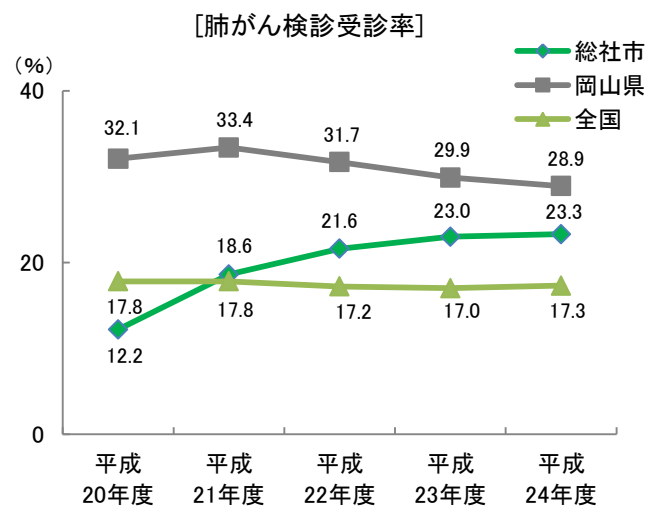
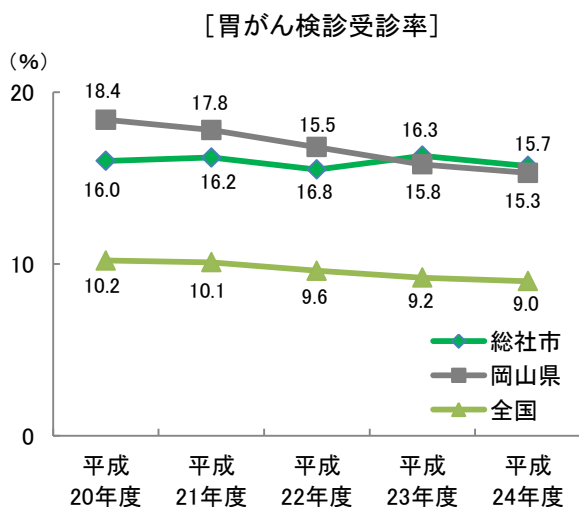
参考：国 女性 52.7% 男性 52%

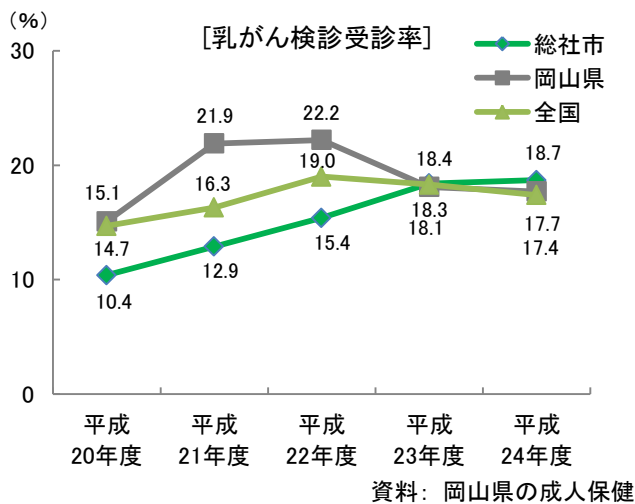
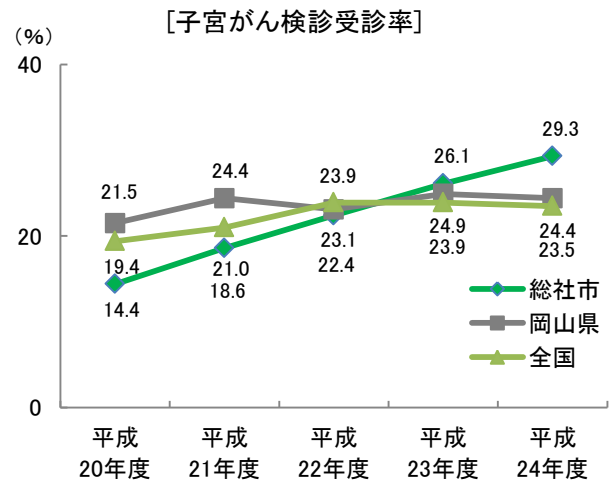
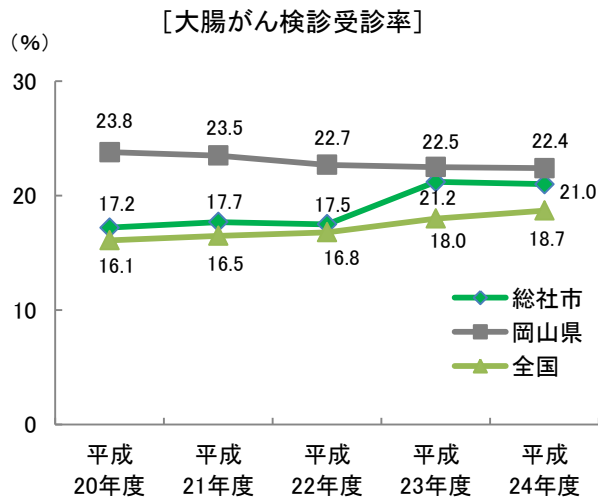
資料：平成 25 年度国保特定健康診査結果

⑨ がん検診の受診状況

- がん検診の受診率は、平成 24 年の胃がん検診、子宮がん検診、乳がん検診は、岡山県・全国を上回っています。
- 肺がん検診、大腸がん検診は、全国を上回っていますが、岡山県は下回っています。

【がん検診の受診率の推移】





参考：H24 精密検査受診率

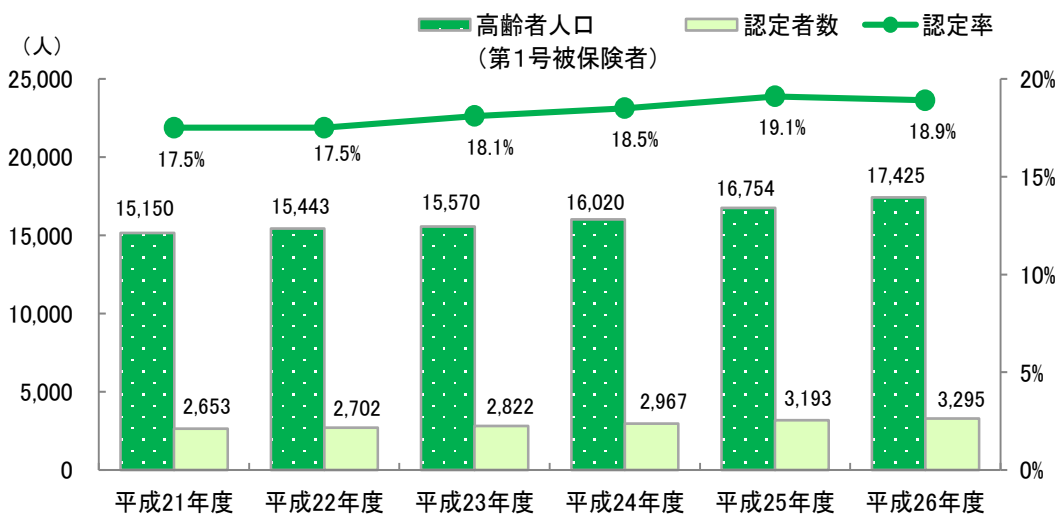
胃がん検診	90.6%
肺がん検診	90.0%
大腸がん検診	76.6%
子宮がん検診	87.1%
乳がん検診	92.3%

資料：平成25年度地域保健・健康増進事業報告

⑩ 要介護認定者数の推移

- 要介護認定者数，認定率ともにおおむね増加傾向です。
- 健康な高齢者を増やす，更なる介護予防の取り組みが求められます。

【高齢者人口，要介護認定者数の推移】

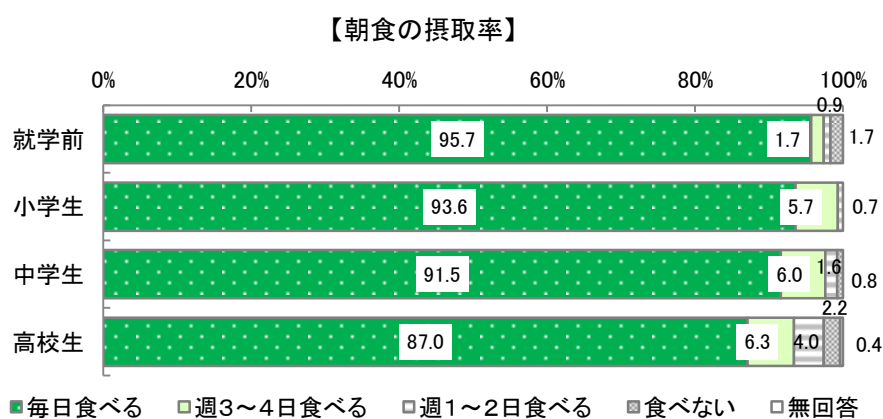


資料：総社市介護保険課作成データ

(2) 食育

① 朝食の摂取率と睡眠時間の状況

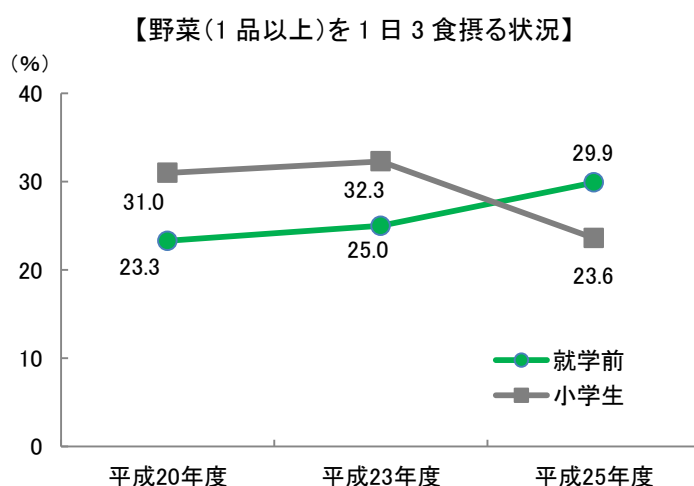
- 就学前，小学生，中学生，高校生のいずれも，「毎日食べる」と回答した割合が約9割を占める反面，「週1～2日食べる」，「食べない」と回答した，ほとんど食べない子どもがいます。特に，高校生では6.2%となっています。
- 年齢が上がるにつれて，平均睡眠時間が短くなっており，朝食摂取率と比例しています。（平均睡眠時間 就学前：9.7時間 小学生：9時間 中学生：7.3時間 高校生：6.5時間）
- 「早ね 早おき 朝ごはん」の啓発により，幼児期から朝食を食べる習慣をつけていく必要があります。



資料：平成 25 年度こどもの食育に関するアンケート

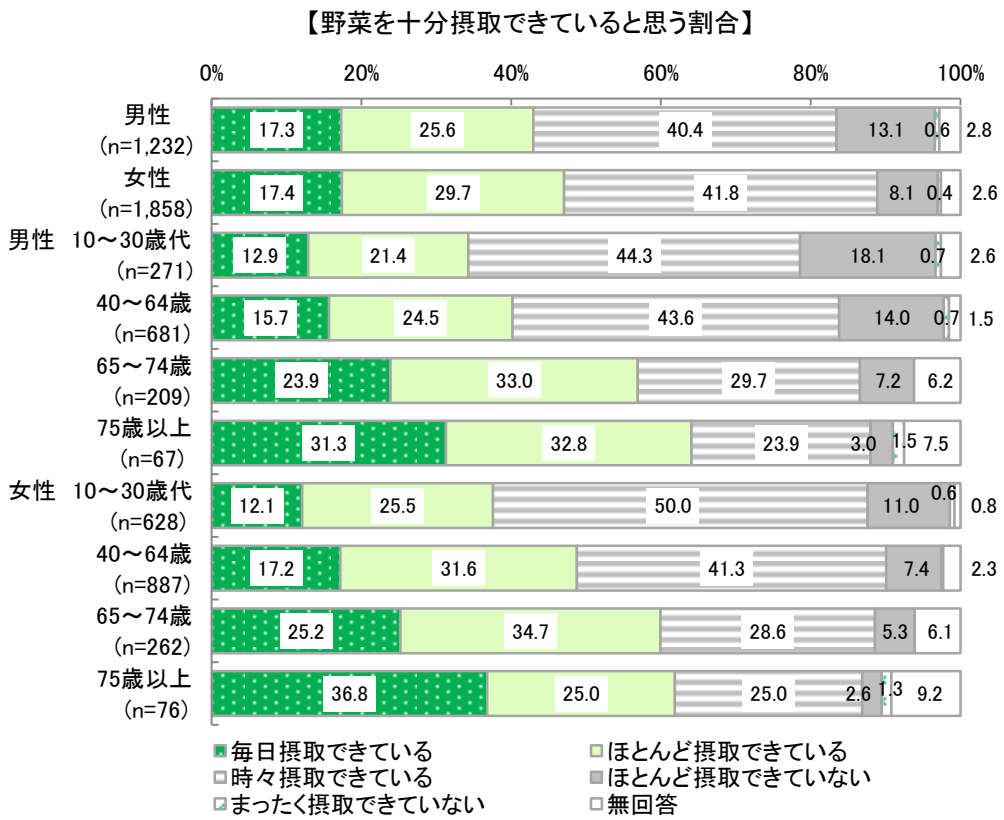
② 野菜の摂取状況

- 野菜（1品以上）を1日3食摂る子どもの割合は，就学前児童，小学生ともに20%台であり，就学前児童は前回調査に比べて上昇し，小学生は低下しています。小学校における食育の更なる取り組みが求められます。



資料：平成 25 年度こどもの食育に関するアンケート

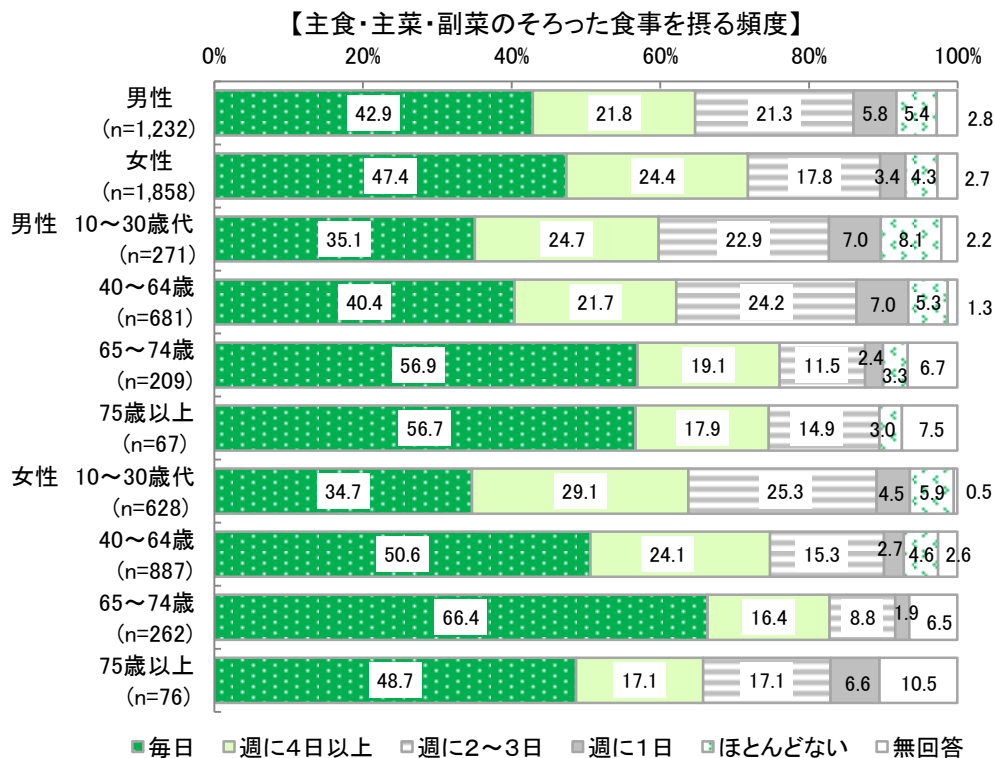
➤ 野菜を十分摂取できていると思う割合は、男女ともに年齢が上がるほど高くなって
います。



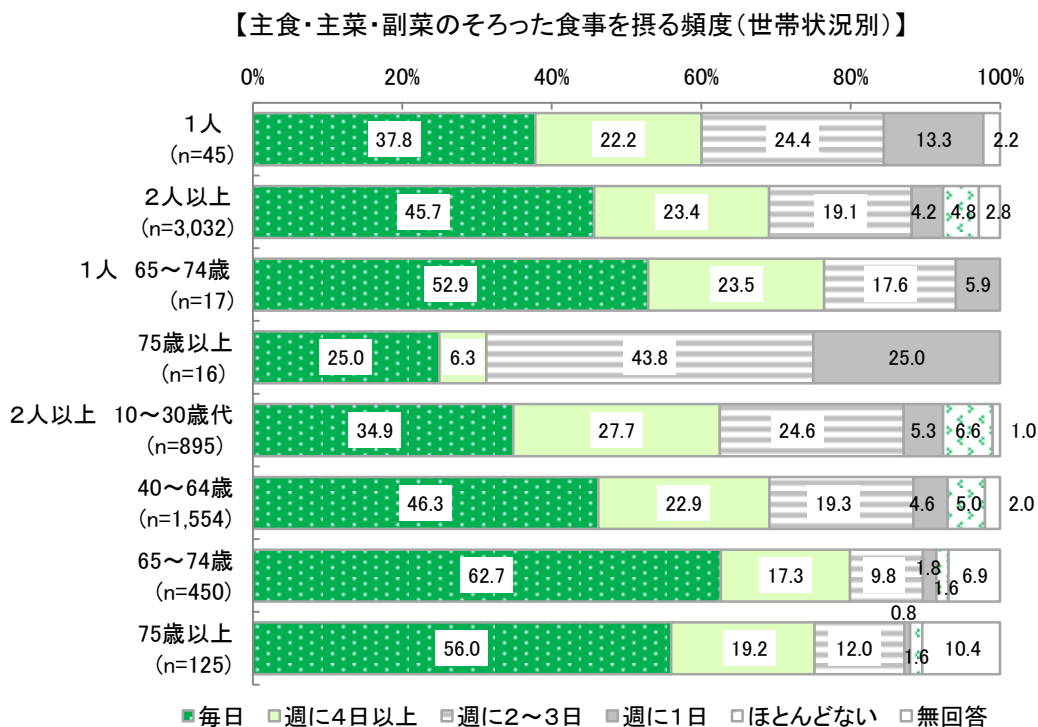
資料:平成 25 年度市民の健康づくり・生活習慣に関するアンケート

③ 主食・主菜・副菜のそろった食事を摂る状況

- 主食・主菜・副菜のそろった食事を毎日摂る割合は、年齢が低い層ほど低くなっています。



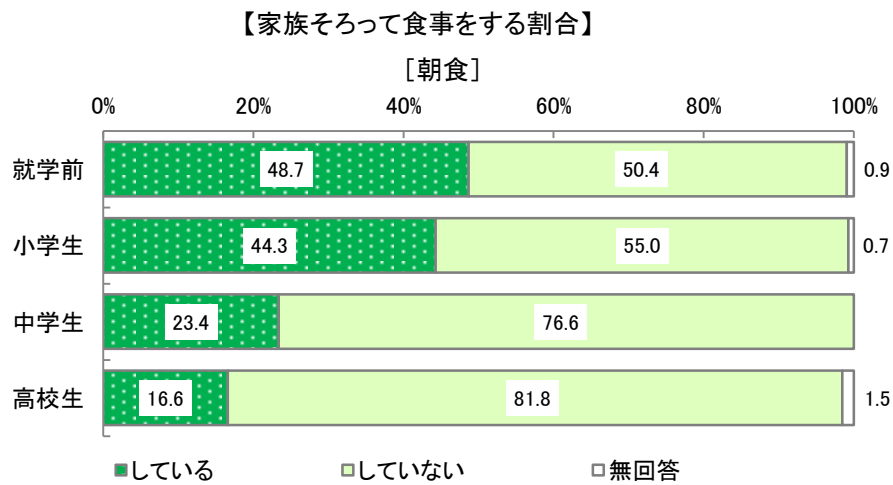
- 世帯状況別にみると、主食・主菜・副菜のそろった食事を毎日摂る割合は、65歳以上で、2人以上の世帯が1人の世帯よりも高くなっています。



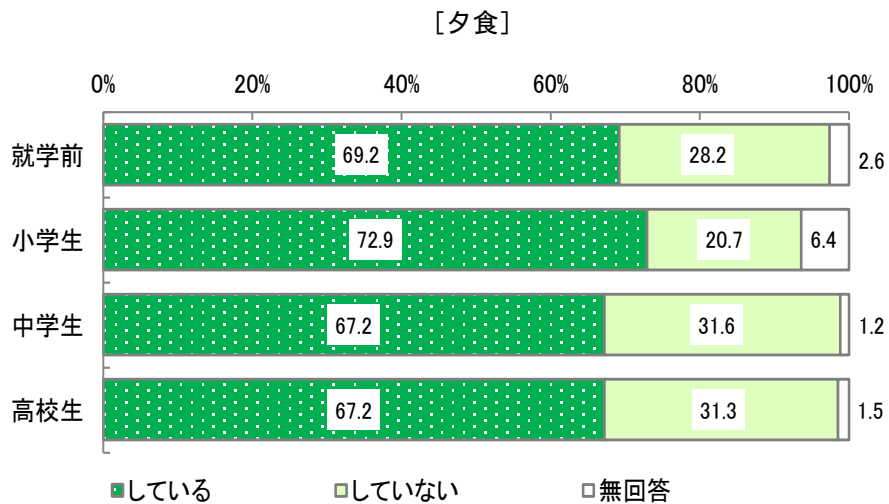
資料:平成25年度市民の健康づくり・生活習慣に関するアンケート

④ 共食の状況

- 朝食について、家族そろって食事をする割合が、年齢が上がるにつれて低くなっています。



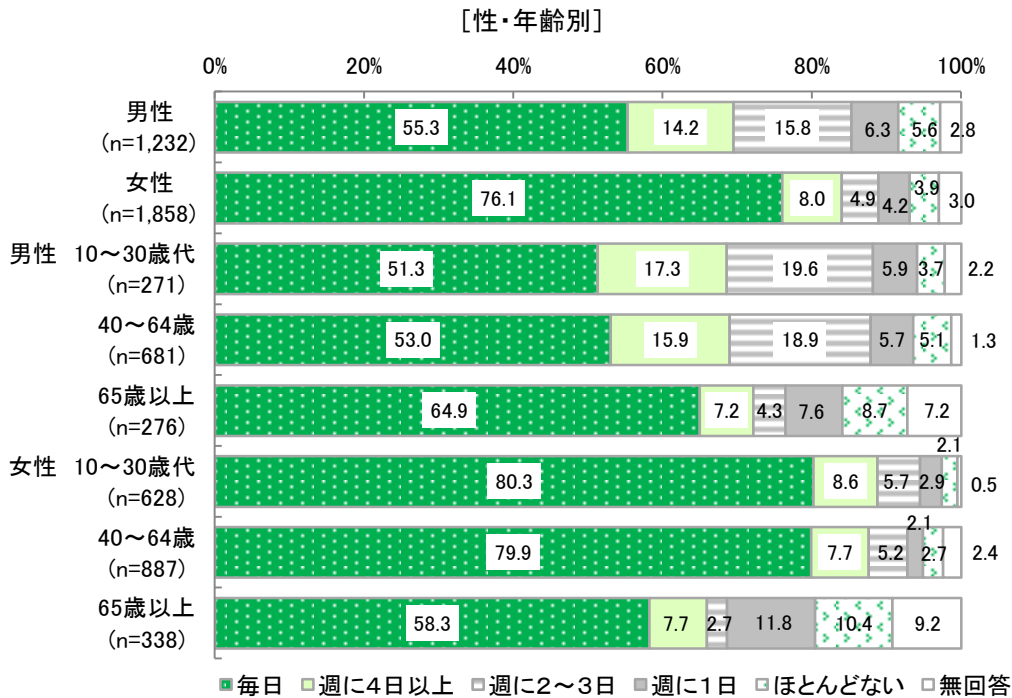
- 夕食について、家族そろって食事をする割合は、いずれも約 7 割にとどまっています。



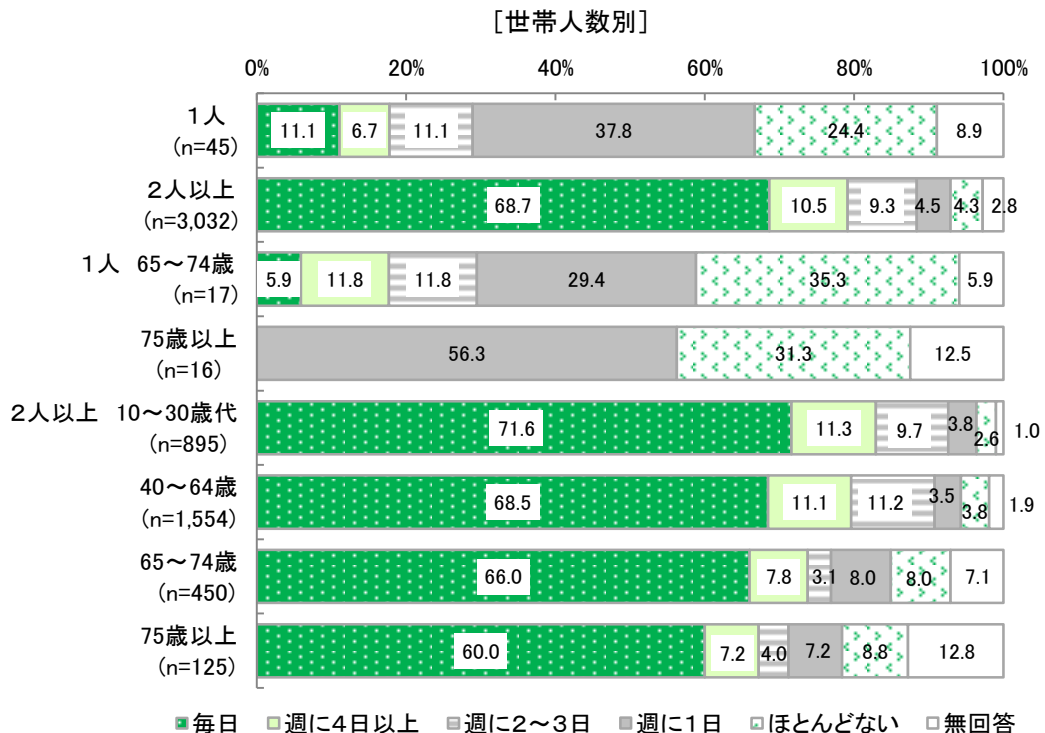
資料：平成 25 年度こどもの食育に関するアンケート

- 家族や友人などと一緒に食事をする日が毎日である割合は、性・年齢別にみると男性10～64歳、女性の75歳以上で低くなっています。

【家族や友人などと一緒に食事をする頻度】



- 1人の世帯では約1割，2人以上の世帯では約7割となっています。
- 1人以上の世帯を年齢別にみると，65歳以上で，「週に1日」，「ほとんどない」という割合が高くなっています。食を通じた居場所づくり，人と交わる場を設けることが必要です。



⑤ 摂取エネルギー構成比の状況

- 摂取エネルギーは平成 11 年から減少傾向ですが、脂質エネルギーは、平成 16 年よりわずかに増加し 25%を超え、概ね女性が高い状況にあります。
(グラフ化予定)

【摂取エネルギー構成比の年次推移】

	たんぱく質	脂質	炭水化物	
平成 11 年県	15.4%	24.4%	60.2%	1915kcal
平成 16 年県	14.9%	24.6%	60.5%	1881kcal
平成 23 年県	14.6%	25.2%	60.2%	1842kcal
平成 23 年全国	14.6%	26.2%	59.2%	1840kcal

資料:H11・16・23 県民健康調査 H23 厚生労働省 国民健康・栄養調査

⑥ 小・中学生の肥満とやせの状況

- やせ傾向（肥満度-20%以下）、肥満傾向（肥満度+20%以上）ともに中学生で増えていますが、県よりは低い状況です。（グラフ化予定）

【市内小・中学生の肥満とやせの状況】

	小学生	中学生
やせ傾向	1.3%	2.9%
肥満傾向	6.4%	6.7%

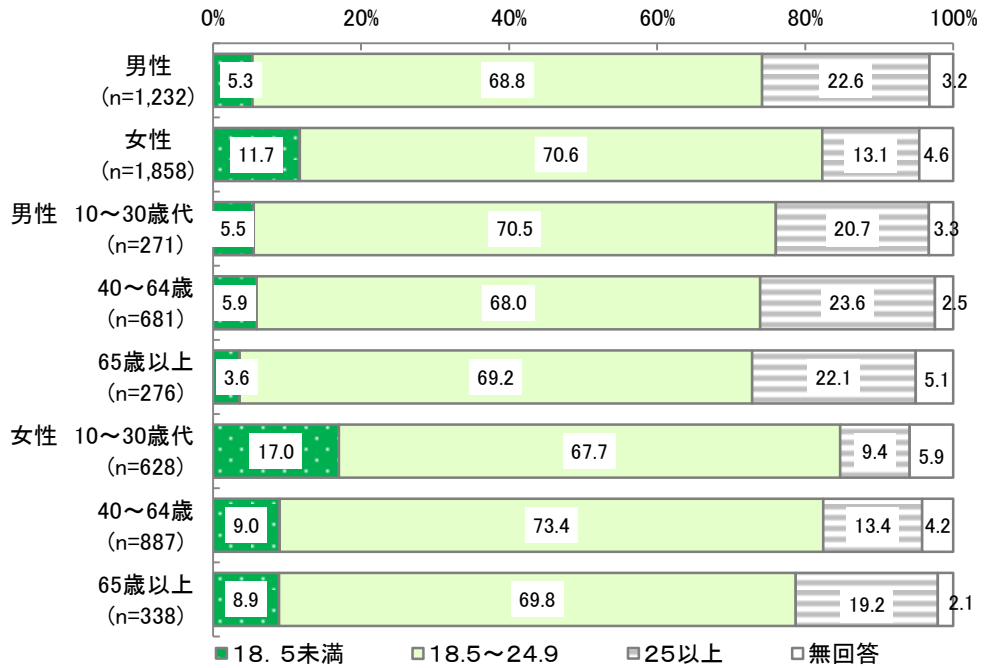
資料:H25 学校保健統計

(参考:H25 岡山県 やせ傾向 中学生 3.2%
肥満傾向 中学生 8.3%)

⑦ BMIの状況

- 肥満（BMI 25 以上）の割合は、男性が女性よりも高く、男性ではすべての年齢層で2割を超えています。
- やせ（BMI 18.5 未満）の割合は、女性 10～30 歳代で 17.0%と高くなっています。

【BMI の状況】

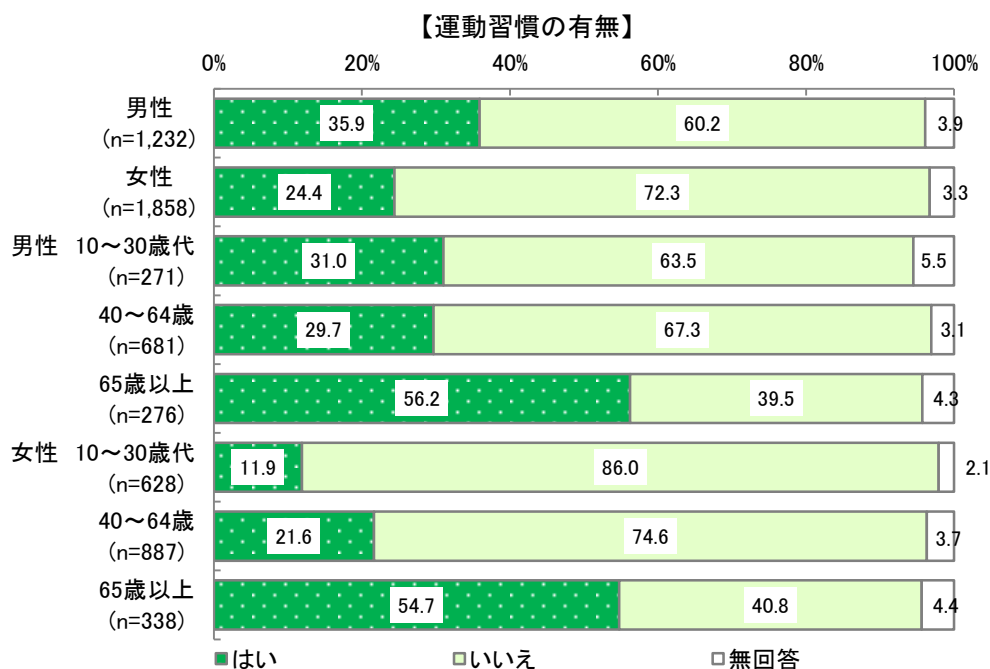


資料:平成 25 年度市民の健康づくり・生活習慣に関するアンケート

(3) 身体活動・運動

① 運動習慣

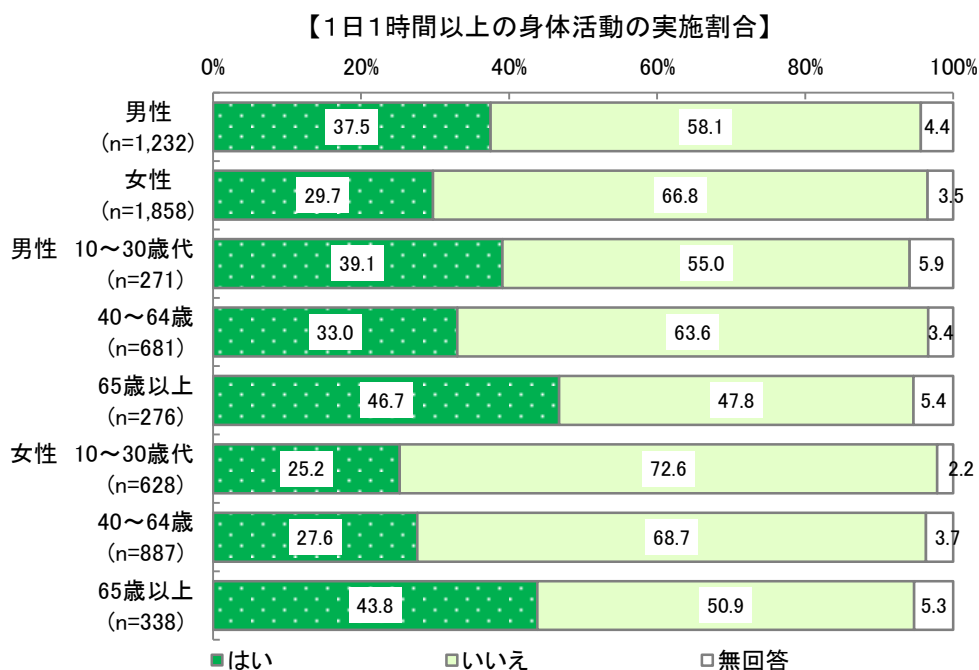
- 1日30分以上の軽い汗をかく運動を週2日以上、1年以上実施している人の割合は、男女ともに65歳以上で5割を超えて高くなっています。
- 女性10～30歳代では約1割と低くなっています。
- 65歳以上の運動習慣の割合は半数を超えており、市内125箇所で実施している「いきいき百歳体操」にも約1,800人の高齢者が参加しています。
- 運動する時間が確保しにくい方へは、歩く機会を増やすなど身体活動量の増加を進めていく必要があります。



資料:平成25年度市民の健康づくり・生活習慣に関するアンケート

② 身体活動

- 1日1時間以上の身体活動を実施している人の割合は、女性10～64歳代で低くなっています。

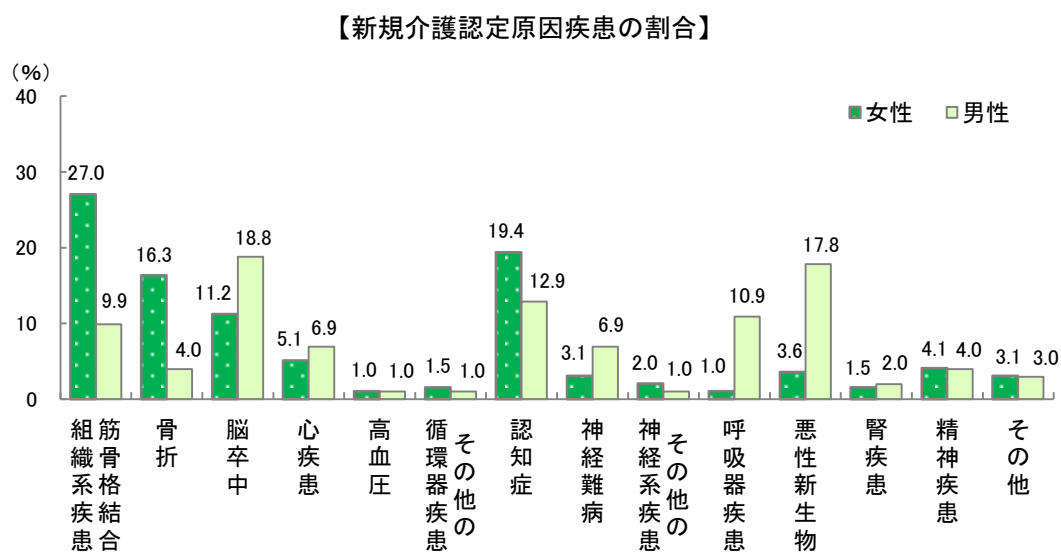


資料:平成25年度市民の健康づくり・生活習慣に関するアンケート

※参考 外に出てよく遊ぶ3歳児の割合 96.3%

③ 新規介護認定原因疾患

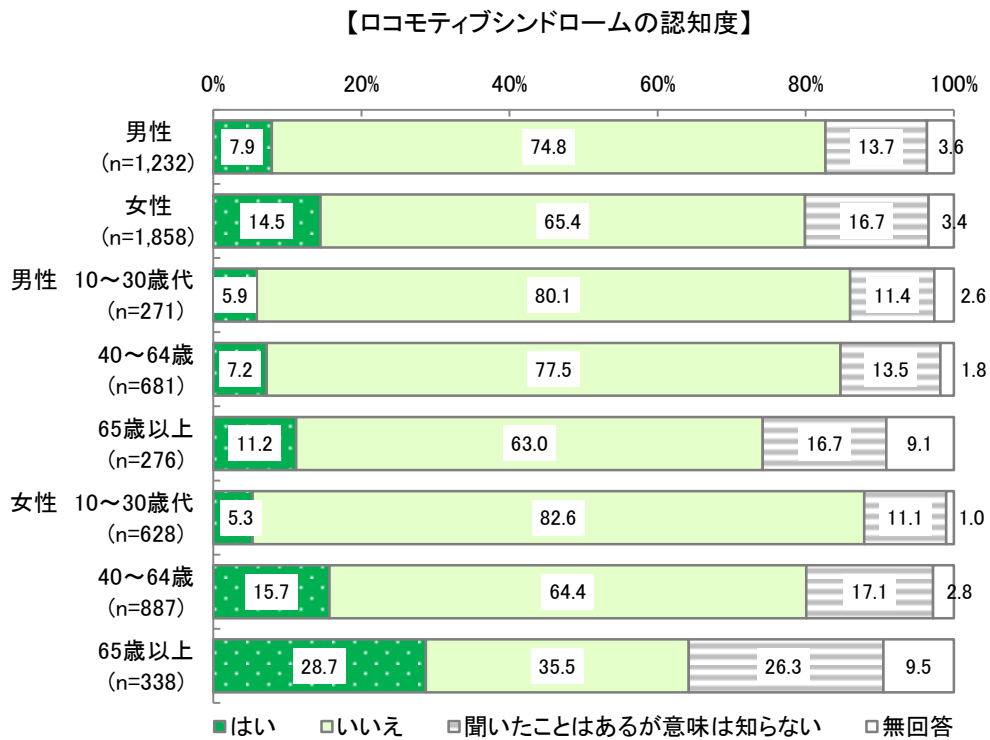
- 新規介護認定原因疾患は、女性は筋骨格結合組織系疾患、認知症が高くなっていますが、男性は脳卒中、悪性新生物が高くなっています。



資料:平成25年備中保健所作成データを使用

④ ロコモティブシンドロームの認知度

- ロコモティブシンドロームという言葉を知っている割合は低く、女性 65 歳以上で約 3 割とやや高くなっていますが、他の年齢層では 1 割台以下となっています。
- ロコモティブシンドロームの啓発を勧め、介護予防のための運動の必要性を周知し、運動する機会の増加を促していく必要があります。

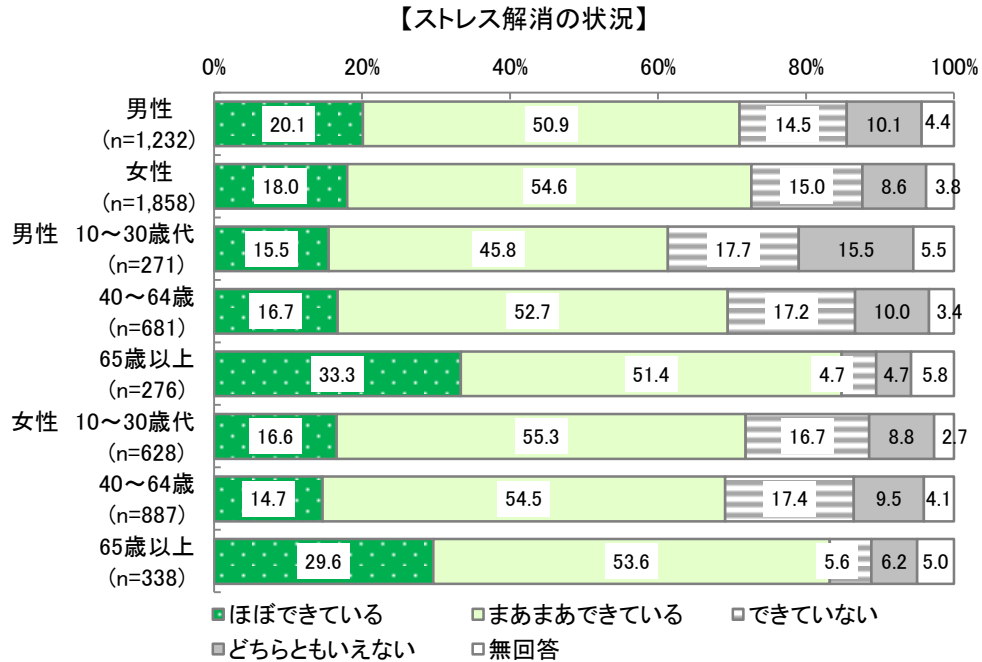


資料:平成 25 年度市民の健康づくり・生活習慣に関するアンケート

(4) 休養・こころの健康

① ストレスの状況

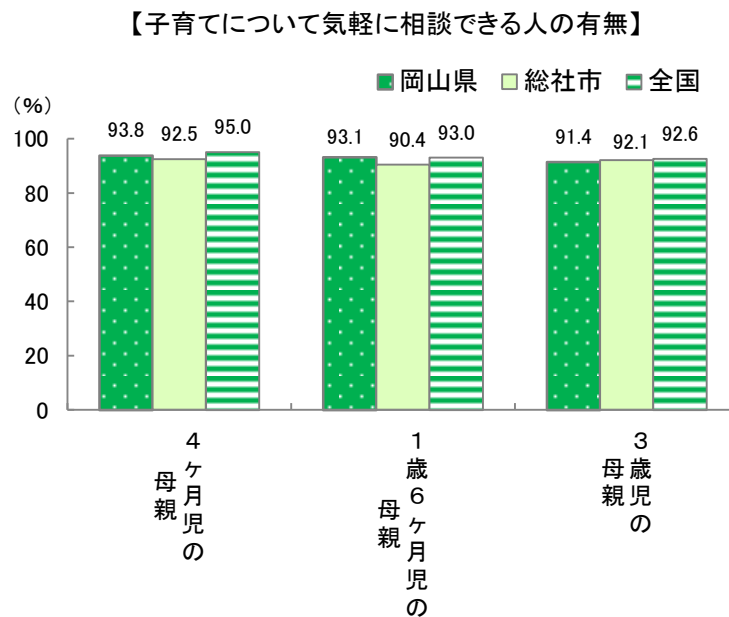
- 日常生活の中で不満、悩み、ストレスなどをうまく解消できていない人の割合は、男女ともに 10～30 歳代・40～64 歳で 2 割弱となっています。



資料: 平成 25 年度市民の健康づくり・生活習慣に関するアンケート

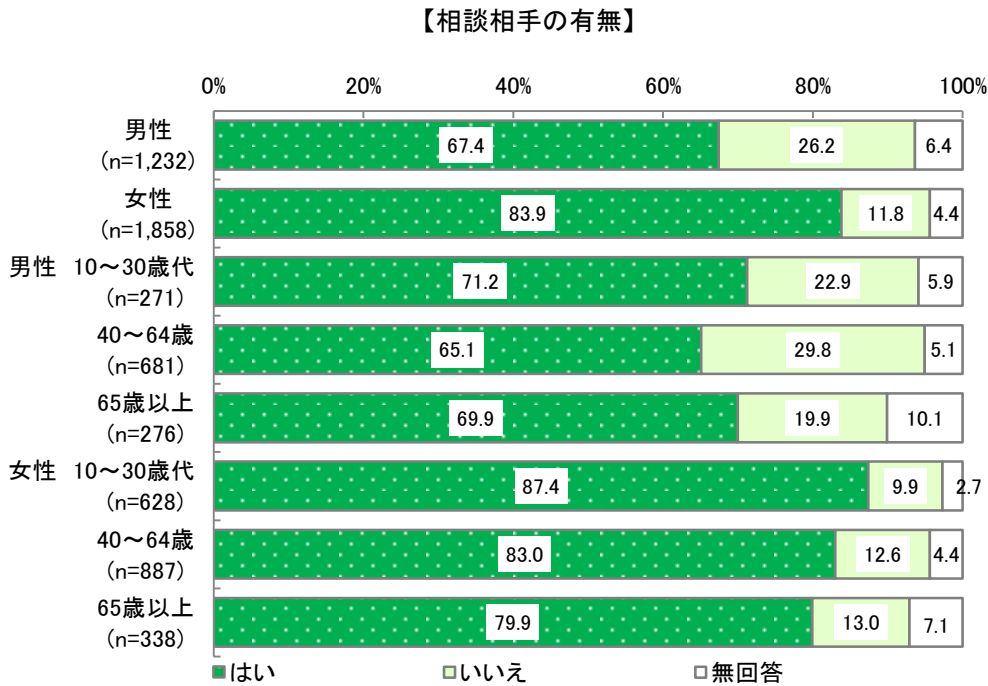
② 相談相手の有無

- 子育てについて気軽に相談できる人のいる割合は、90%台となっています。



資料: 平成 25 年度すこやか親子アンケート

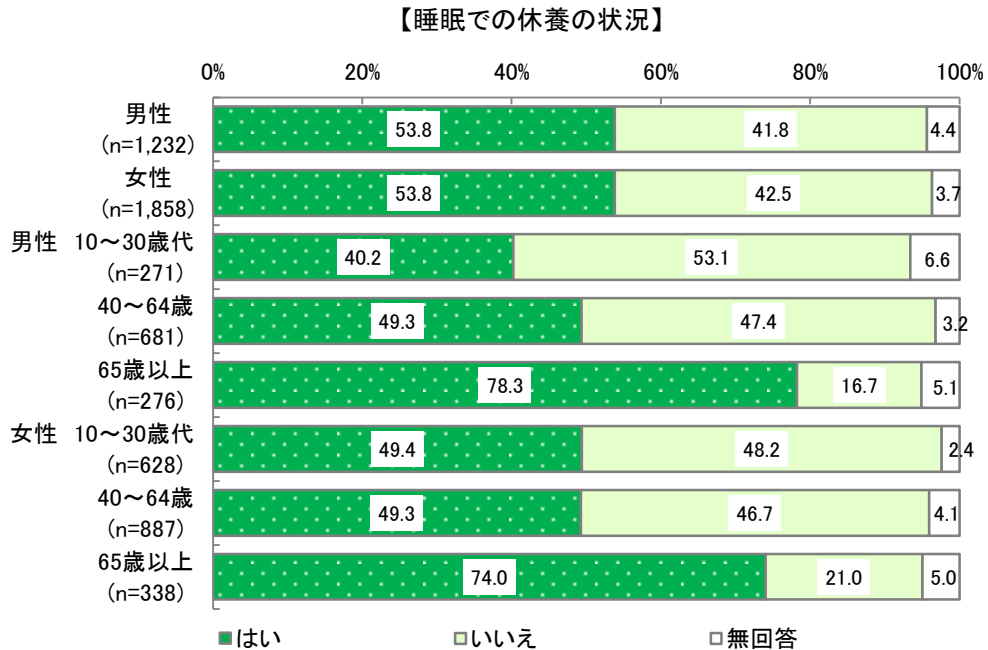
- ストレスを強く感じたときに相談できる人がいない人の割合は、男性 40～64 歳で高く、約3割となっています。



資料:平成 25 年度市民の健康づくり・生活習慣に関するアンケート

③ 睡眠の状況

- 睡眠で十分疲れがとれている人の割合は、男女ともに 65 歳以上で 7 割を超えて高くなっていますが、男女ともに 10～30 歳代・40～64 歳では 40%台にとどまっています。

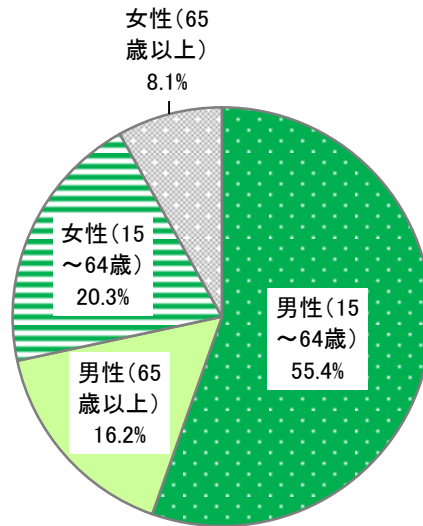


資料:平成 25 年度市民の健康づくり・生活習慣に関するアンケート

④ 自殺者の状況

- 平成19年から平成23年の自殺による性・年齢別死亡者割合は、男性（15～64歳）で5割を超えています。

【自殺による性・年齢別死亡者割合】

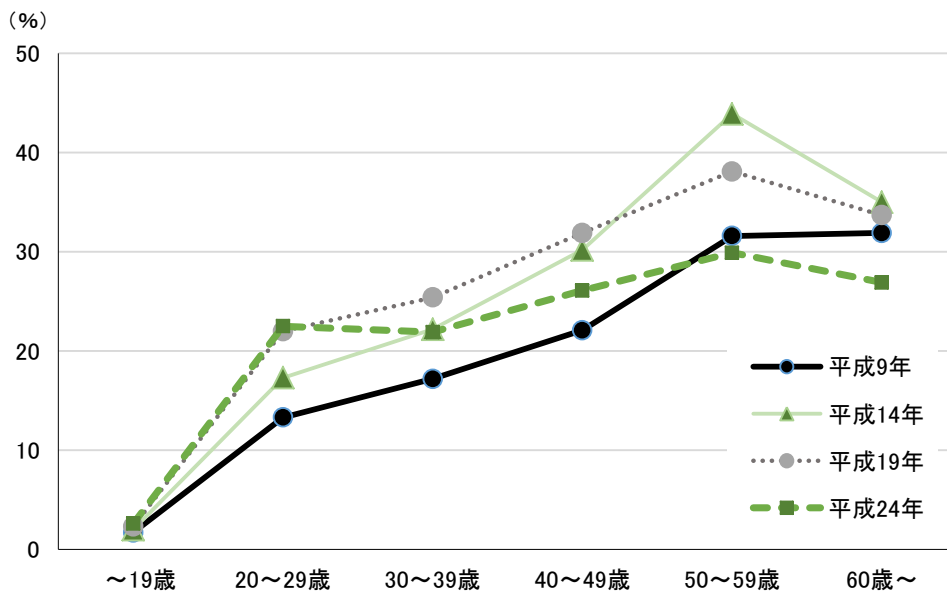


(※男性 53人 女性 21人)

資料:平成19年～平成23年岡山県備中保健所管内人口動態等のデータ

- 全国の年次推移をみると、近年、60歳以上の高齢層における自殺死亡率の低下が著しく、50歳代以上の自殺率は、平成9年よりも下降しています。
- その一方で、20代の自殺死亡率は、他の年齢より低い水準ながら過去にない高い水準にまで達しています。
- 若い世代への自殺対策が急務となっています。

【年齢階級別自殺死亡率の推移(全国)】



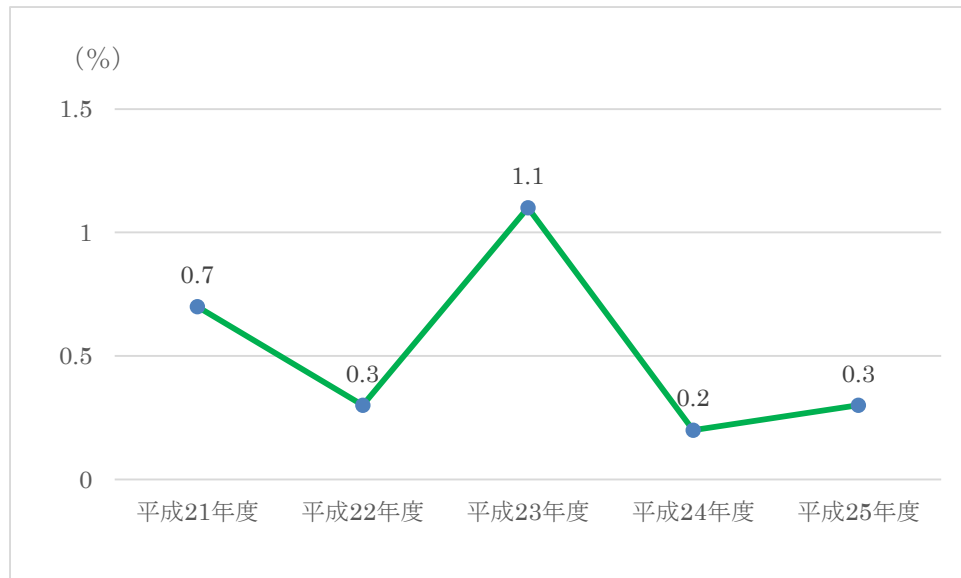
資料:平成25年版自殺対策白書

(4) 飲酒・たばこ

① 妊娠中の飲酒状況

- 妊娠届出時のアンケート調査では、妊娠中に毎日飲む人や時々飲む人の割合は、減少していますが、飲酒を継続している人もいます。

【妊娠中の飲酒の割合】

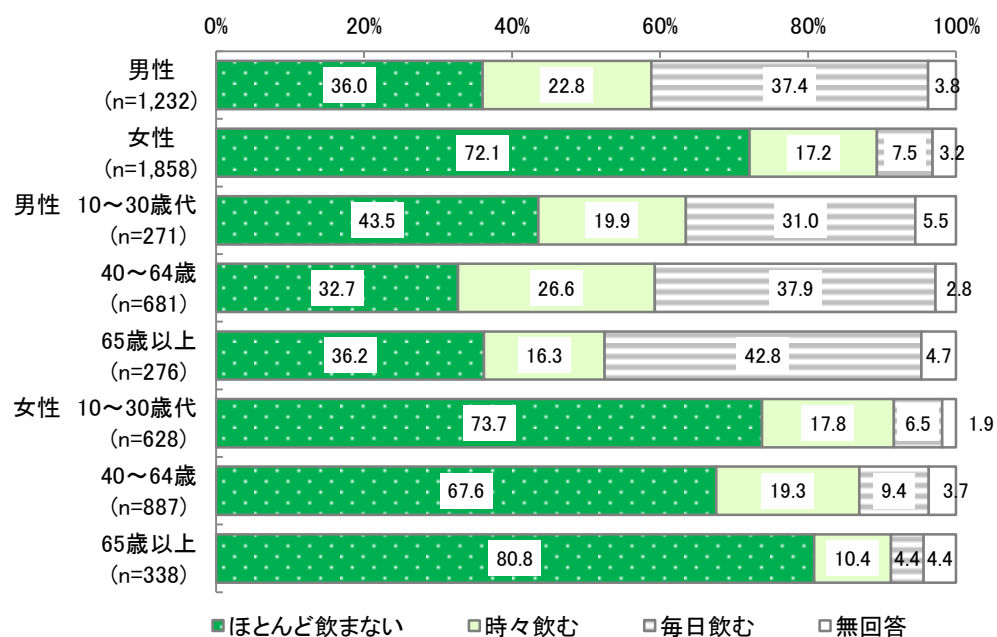


資料: 総社市妊婦アンケート

② 飲酒の状況

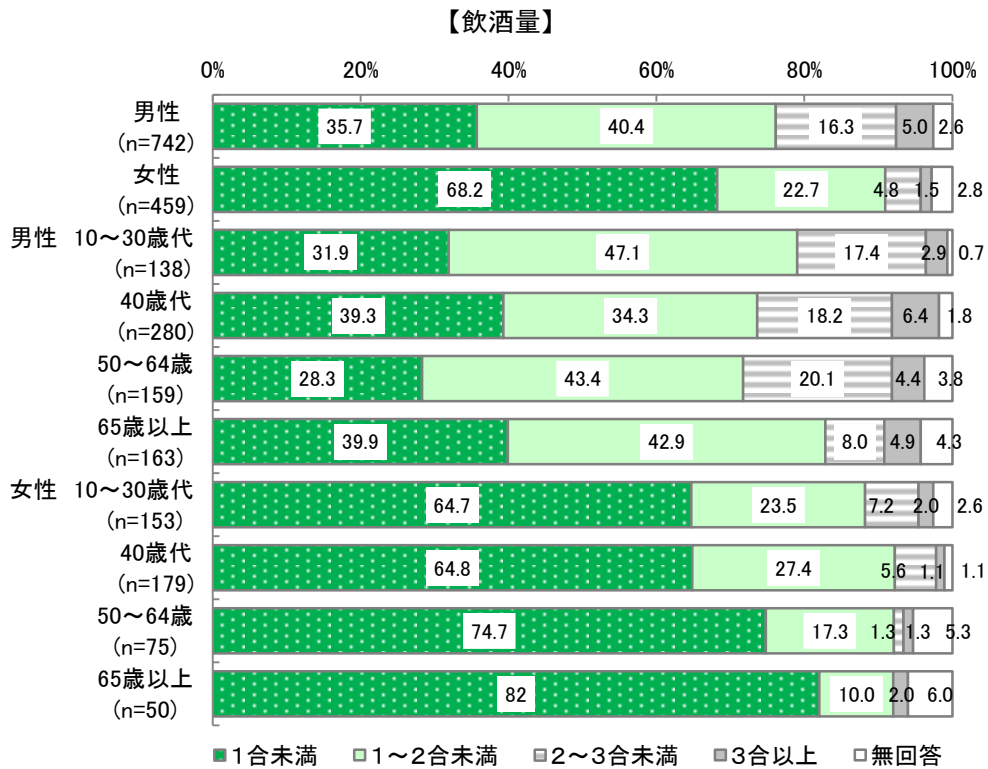
- 毎日飲酒する割合は男性で年齢が高い層ほど高く、男性 65 歳以上では4割を超えています。

【飲酒の頻度】



資料: 平成 25 年度市民の健康づくり・生活習慣に関するアンケート

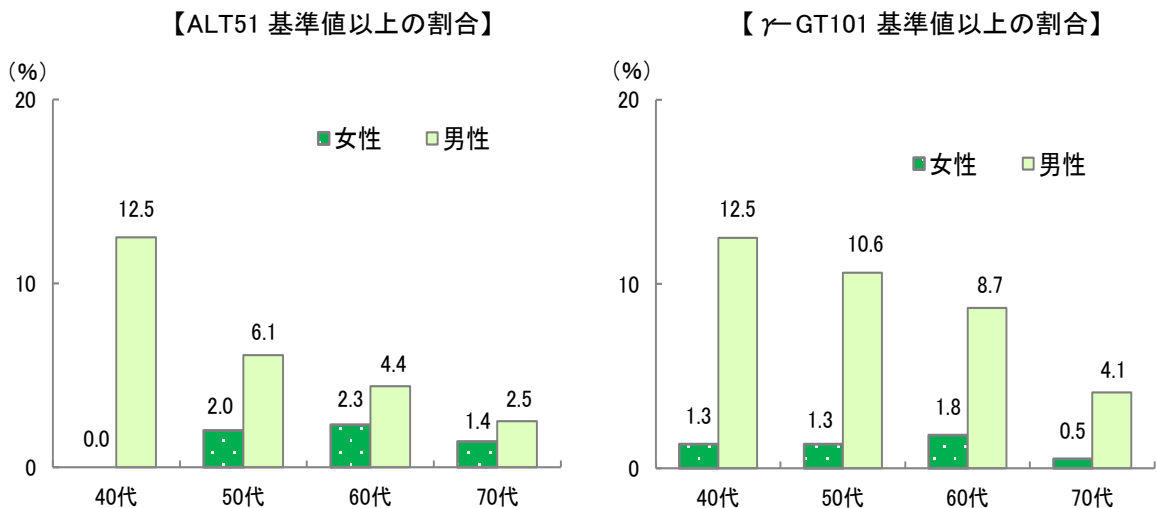
- 飲酒をする人の飲酒量は、男性 40～64 歳で高くなっています。



資料:平成 25 年度市民の健康づくり・生活習慣に関するアンケート

③ 健診結果

- 肝機能の検査項目である ALT, γ -GT が基準値以上の割合は、男性 40 歳代で高くなっています。

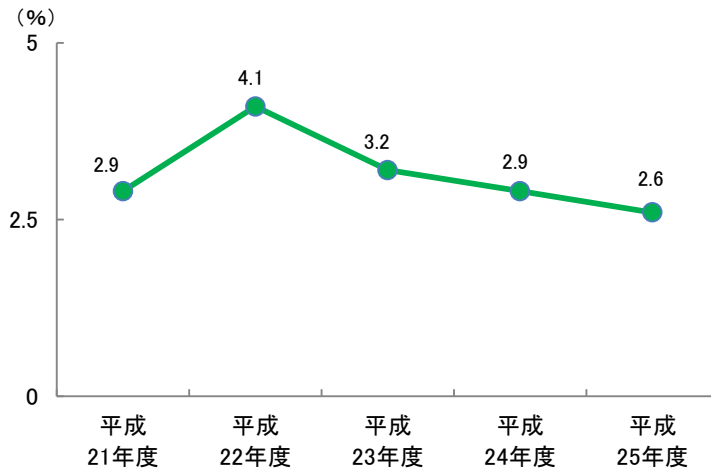


資料:平成 25 年度特定健診結果

④ 妊娠中の喫煙状況

- 妊娠中の喫煙状況は、平成 22 年度に上昇していますが、平成 23 年度以降、減少傾向にあります。

【妊娠中の喫煙率】

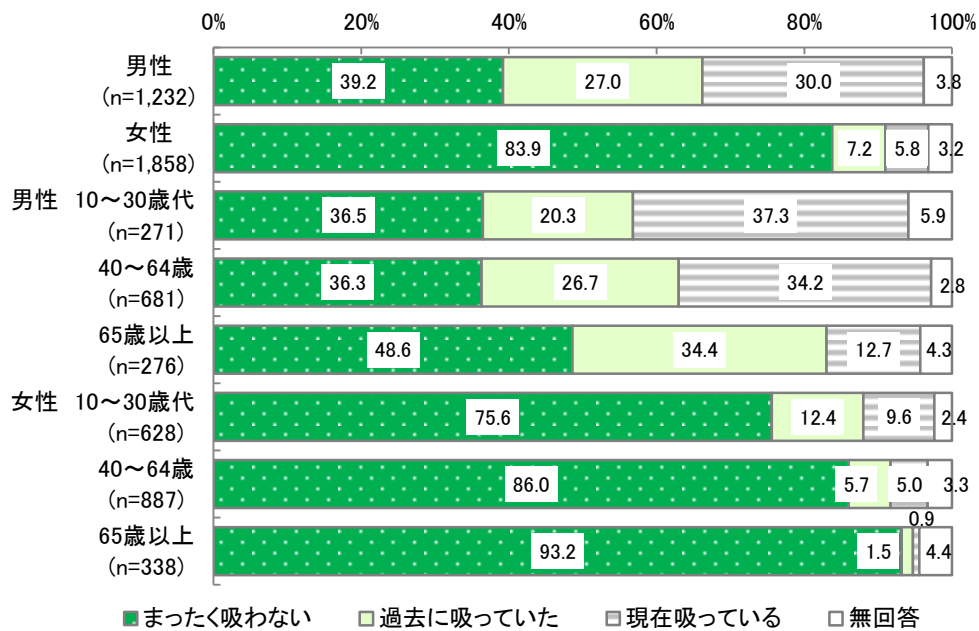


資料: 総社市妊婦アンケート

⑤ 喫煙状況

- 現在たばこを吸っている人の割合は、男性 10~64 歳代で高く 30%台となっています。

【喫煙の状況】



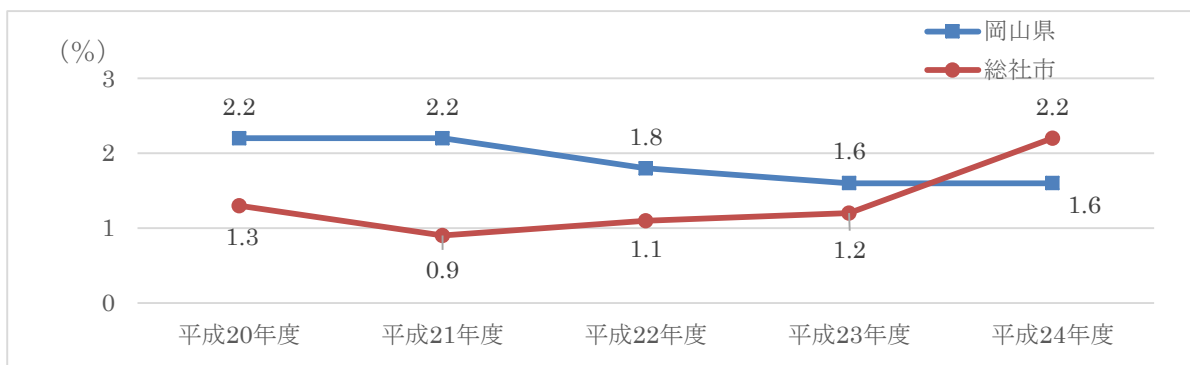
資料: 平成 25 年市民の健康づくり・生活習慣に関するアンケート

(6) 歯と口腔の健康

① 1歳6か月児のむし歯有病率

- 1歳6ヶ月児のむし歯有病率は、年々微増しています。

【1歳6ヶ月児のむし歯有病率】

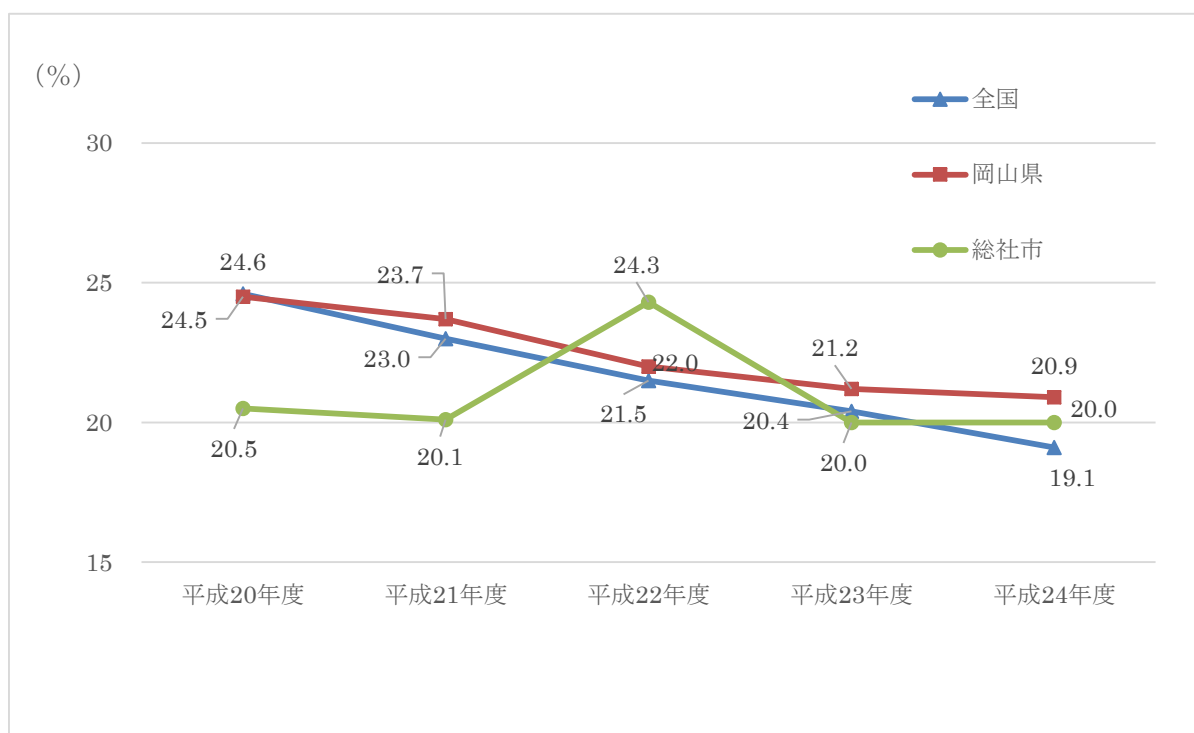


資料：岡山県の母子保健

② 3歳児のむし歯有病率

- 3歳児のむし歯有病率は、平成22年度を除いたすべてで県の値を下回っていますが、平成22・24年度は全国平均を上回っています。

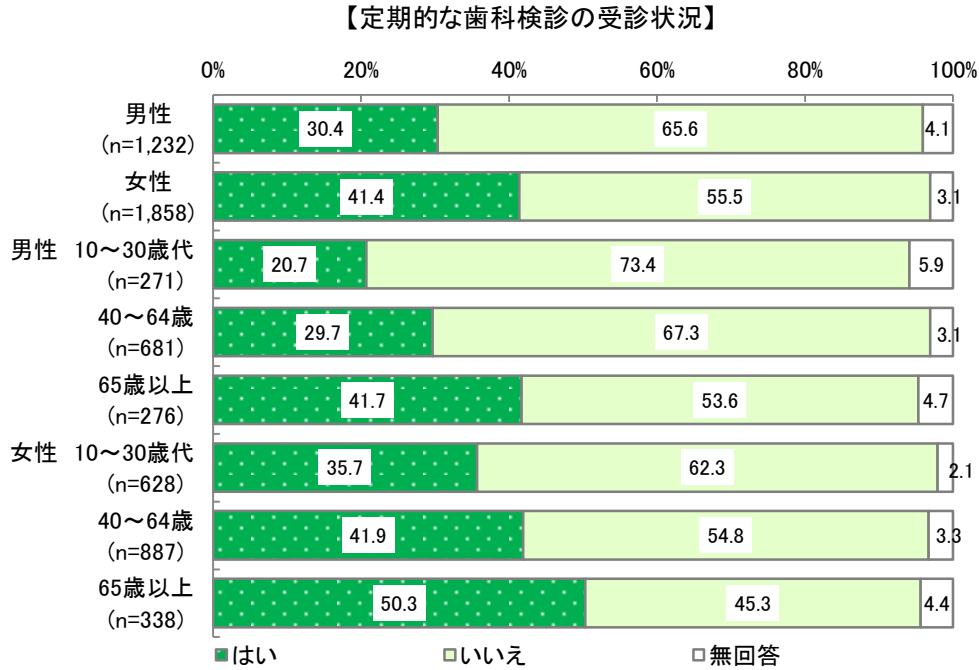
【3歳児のむし歯有病率】



資料：岡山県の母子保健

④ 定期検診の受診状況

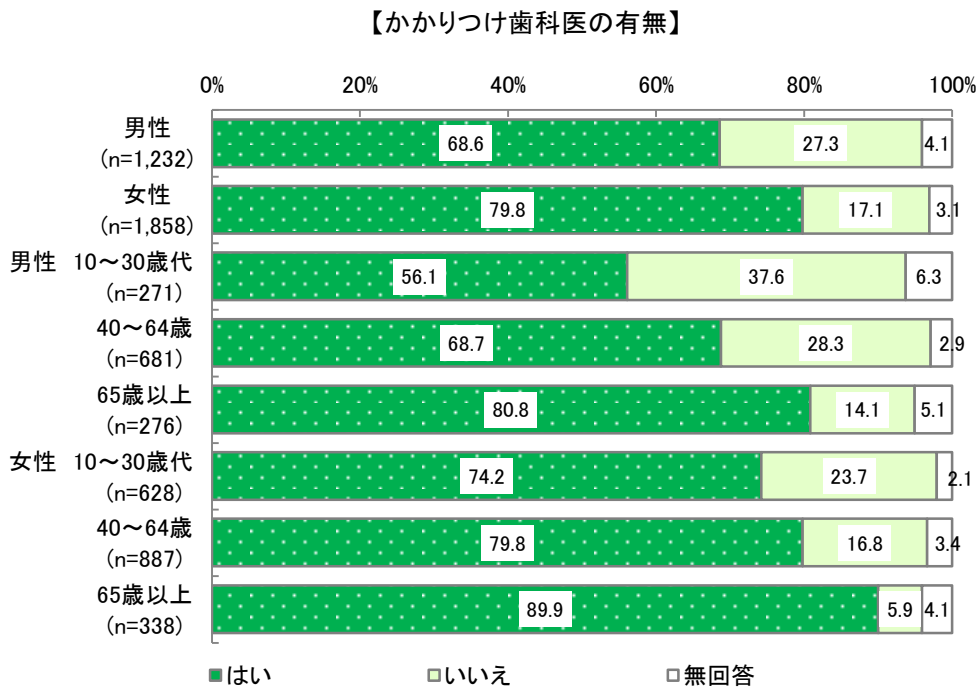
- 定期的に歯科検診を受診している割合は、女性が男性よりも高く、男女ともに年齢が上がるほど高くなっています。



資料:平成 25 年度市民の健康づくり・生活習慣に関するアンケート

⑤ かかりつけ歯科医の状況

- かかりつけ歯科医がある割合は、女性が男性よりも高く、男女ともに年齢が上がるほど高くなっています。



資料:平成 25 年度市民の健康づくり・生活習慣に関するアンケート

(7) 地域で支え合う健康づくり

① 地域活動への参加状況

- 過去1年間の地域活動への参加状況は、いずれの年齢層も、「祭り・季節の行事」の割合が高くなっています。
- 性・年齢別にみると、女性65歳以上では、「地域ボランティア活動」、「カルチャースクール・公民館講座」の割合が4割を超えて高く、男性65歳以上では「町内会・自治会」の割合が高くなっています。

【地域活動への参加状況】(表差し替え予定)

	回答数	祭り・季節の行事	町内会・自治会	子ども会・PTA	老人クラブ	サークル・自主グループ
男性	1,232人	46.8%	39.7%	17.3%	3.4%	7.7%
女性	1,858人	58.4%	32.8%	39.4%	4.6%	11.7%
男性 10～30歳代	271人	42.8%	20.3%	26.9%	-	6.6%
40～64歳	681人	47.0%	43.2%	19.1%	0.1%	6.8%
65歳以上	276人	50.4%	50.0%	3.6%	14.9%	11.2%
女性 10～30歳代	628人	59.6%	21.5%	50.6%	0.3%	5.9%
40～64歳	887人	57.8%	36.5%	45.5%	1.0%	10.4%
65歳以上	338人	58.3%	44.1%	3.0%	21.9%	26.0%

	回答数	地域ボランティア活動	カルチャースクール・公民館講座	その他	参加していない	無回答
男性	1,232人	16.2%	2.8%	2.6%	26.2%	3.7%
女性	1,858人	19.1%	15.3%	3.1%	14.3%	4.6%
男性 10～30歳代	271人	6.3%	1.1%	2.2%	38.7%	2.6%
40～64歳	681人	16.0%	1.0%	3.2%	24.2%	2.2%
65歳以上	276人	26.4%	9.1%	1.4%	18.8%	8.3%
女性 10～30歳代	628人	5.1%	3.8%	2.2%	22.6%	3.8%
40～64歳	887人	20.6%	13.5%	3.0%	12.1%	3.7%
65歳以上	338人	41.4%	41.7%	4.7%	4.4%	8.0%

資料：平成25年度市民の健康づくり・生活習慣に関するアンケート

② 父親の育児参加の状況

- 子どもの年齢が上がるにつれて、父親の育児参加割合が低下しています。
- 国や県と比較しても、父親の育児参加割合は低い状況です。

【父親の育児参加割合】(グラフ化予定)

- ・4ヶ月児母：49.1% (県48.6%、国52.0%)
- ・1歳6ヶ月児母：45.6% (県46.1%、国46.3%)
- ・3歳児母：37.7% (県43.7%、国43.0%)

資料：平成25年度健やか親子アンケート

③ 乳幼児の不慮の事故に対する危機意識の状況

- 家庭内外の事故を予防するための危機意識が、県や国の割合と比べて、低い傾向にあります。

風呂場のドアを乳幼児が自分で開けることができないよう工夫した家庭の割合の増加
・1歳6カ月児母：35.1%（県36.7%、国38.2%）
子どもを家に一人残して出かけたり車の中に一人で乗せておくことがある親の割合の減少
・1歳6カ月児母：21.1%（県15.8%、国10%）
・3歳児母：22.8%（県17.4%、国11.7%）
（H25 健やか親子アンケート）

（グラフ化予定）

④ 健康に関するボランティアの活動状況（表差し替え予定）

・愛育委員登録数：505人（H26 健康づくり課統計）
・栄養委員登録数：435人（H26 健康づくり課統計）
・成人検診協力：92回 293人（H25 健康づくり課統計）
・栄養委員の声かけ回数：7664回（H25 健康づくり課統計）
・子育て支援活動をした愛育委員数：104回 443人（H25健康づくり課統計）
・栄養委員による食育活動参加者：39回1,845人（H25 健康づくり課統計）
・民生委員登録数：160人（H26 福祉課統計）
・福祉委員登録数：573人（H26 福祉課統計）
・福祉ボランティア登録数：84団体・3069人（H26社協統計）
・生活支援（介護予防）サポーター登録数：150人（H26 介護保険課統計）
・シルバー人材センター会員数：635人（H26 健康づくり課統計）
・障がい者千人雇用人数：773人（H26 福祉課統計）
・自治組織組織化数：380団体（H26 人権・まちづくり課統計）
・ゲートキーパー養成講座：127人（H25 健康づくり課統計）
・認知症サポーター登録数：2106人（H26.10月 介護保険課統計）